## 日田・玖珠地域

日田市
後迫
羽野
夕田古墳、横穴
日田条里
有田塚ヶ原
尾漕
佐寺
穴観音
古墳
上野第2
上野第1
手崎
玖珠町
角牟礼
四日市上の原
鬼ヶ城古墳
治別当
松木
大山町
中尾原
天瀬町
釘野千軒
前津江村
九重町
中津江村
上津江村
本調査遺跡
試掘調査遺跡
N
0
10
20km

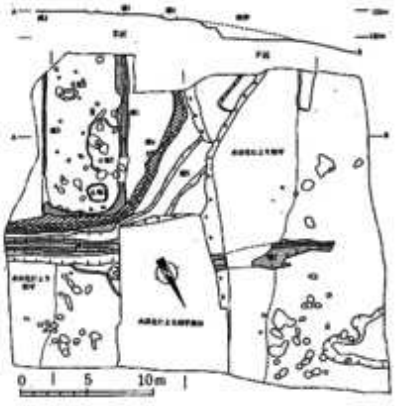
# 162. 上野第1遺跡（平原・米田地区）

| | | | |
|---|---|---|---|
| **所在地** | 日田市大字上野字平原・米田 | **調査面積** | 約2,000㎡ |
| **調査原因** | 道路建設 | **担当者** | 田中裕介・高畠　豊 |
| **調査期間** | 920422～920731 | **処　置** | 調査後破壊 |
| **調査主体** | 大分県教育委員会 | **台帳番号** | 651125（上野遺跡として周知） |

**位　置**　日田市南部の三隈川南岸の標高140ｍの中位段丘上に立地する。台地上には湧水谷があり、その湧水を中心に遺跡が広がる。90年度に台地東側の東原地区の調査をおこない奈良時代の建物群を確認した。93年度の調査は90年度調査区の西側を台地の端から斜面にかけておこなった。

上野第1遺跡（平原・米田地区）位置図
（地形図「日田」使用）

**遺　構**　平原地区：近世溝4条・土壙1基・ピット群。4条にわたる近世の畑地境界溝が確認され、当初は方形に区画されたものが次第に拡張されていく様子が観察された。境界溝の設定時期は18世紀と推定され、段丘面全体の計画的な開発が行なわれたことを示している。段丘面上の耕地の開発史を考えるうえで、重要な資料になると考えられる。



上野第1遺跡（平原地区）E・F区遺構配置図

**遺　物**　若干の縄文土器片と、中世土器片のほかは、大部分は近世の陶磁器である。量的には18世紀後半から19世紀の遺物が圧倒的に多い。

**まとめ**　当初奈良時代の集落遺構の範囲確認を目的としたが、奈良時代の遺構の代わりに近世の畑地遺構を中心とする遺構を検出した。このような畑地境界溝は日田盆地内の段丘上では至る所で確認され、その時期がおおよそ判明したことは近世の畑地遺構の復元研究の重要材料になると考えられる。（田中）

文献：田中裕介・高畠豊『上野第1遺跡（平原地区・米田地区）　上野第2遺跡　手崎遺跡（2・3次）－一般国道 210号日田バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報Ⅴ－』大分県教育委員会、1993

# 163. 手崎（てさき）遺跡

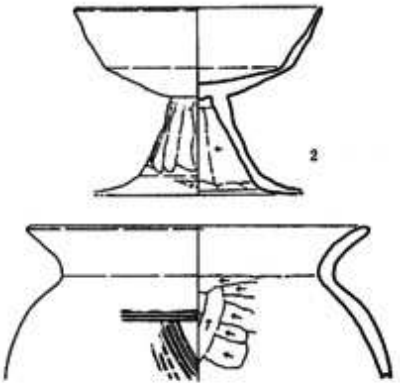
**所在地**　日田市大字高瀬字手崎
**調査原因**　国道バイパス
**調査期間**　930713～931226
**調査主体**　大分県教育委員会
**調査面積**　930㎡
**担当者**　田中裕介・高畠　豊
**処　置**　調査後破壊
**台帳番号**　651208

**位　置**　三隈川との合流点に近い、大山川南岸の低位段丘上に立地する。付近には豊富な湧水があり、これが流れる谷によって区切られた舌状の台地となっている。今回は、平成3年度調査区南隣（E地区）、北隣（F地区）および湧水谷の一部を調査した。

手崎遺跡位置図
（地形図「日田」使用）

**遺　構**　縄文時代後期：土坑1
弥生時代後期：竪穴住居1
古墳時代：竪穴住居3
奈良時代：竪穴住居3・土坑9
平安時代：土坑1
中世・近世：掘立柱建物3・溝2
時期不明：竪穴住居1・土坑多数

古墳時代と奈良時代の竪穴住居は全て造り付けのカマドを有するが、前者に属する住101では須恵器が出土せず、土師器からみて須恵器出現期に遡るものと考えられる。湧水谷では、古代に遡る水田状の土層堆積と植物遺体堆積層を検出した。



住101　出土土器

**遺　物**　縄文時代の包含層は、E地区において2枚認められ、下層からはベルト状施文の押型文土器を僅かに含む無文土器群が出土した。同層には細石核が1点混在していた。また、奈良時代の住居址全てと土坑の一部から、焼塩用製塩土器が出土している。

**まとめ**　今回出土した住101はカマドを有するものとしては県下最古の一例と考えられ、カマド出現期の地域性を考える上で重要となろう。今後は、湧水谷も含めたこの地域の開発史のなかで、遺跡を位置づけていくことが必要である。（高畠）

文献：田中裕介・高畠豊「手崎遺跡（2・3次）」『一般国道 210号日田バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報V』大分県教育委員会、1994

# 164. 有田塚ヶ原古墳群（ありたつかがはら）

| | | | |
|---|---|---|---|
| **所在地** | 日田市大字有田字塚ヶ原 | **調査面積** | 500㎡ |
| **調査原因** | 道路建設 | **担当者** | 友岡信彦・神崎哲也 |
| **調査期間** | 930406～930716 | **処置** | 調査後破壊 |
| **調査主体** | 大分県教育委員会 | **台帳番号** | 651183（ツカケ原1号墳として周知） |

**位置**　遺跡は日田市街から3㎞程東の低丘陵上に位置する。標高は175mを測り、西に尾漕遺跡、南に松野原遺跡を北側縁辺部には平島横穴墓群が位置する。

有田塚ヶ原古墳群位置図
（地形図「日田」使用）

**遺構**　有田塚ヶ原古墳群は現在2基の古墳から成り立っているが、今回は工事路線にかかる1号墳の調査を行った。調査は昨年度からの継続である。

**遺物**　周溝内からは西側の部分から坏、甕が破砕された状態で、検出された。

前室からは馬具の轡の部分が2、鐙3、脚付壺1、提瓶1がほぼ完形で、高坏2個体分が割れた状態で検出された。

玄室からは鉄鏃、鉄斧や提瓶、甕の破片、玉類が検出されたが、盗掘によって撹乱された状態であった。

遺物出土状況

**まとめ**　当1号墳は直径約10mの円墳であり、周溝まで含めると約15mになる。周溝は北～南東にかけての一部と西側の一部で確認された。主軸はN－57°－Eにとり、西南西に開口する両袖複室の横穴式石室である。墓壙は地山整形時の整地面を掘り込む事なく、床面として石室を構築している。玄室は胴張りで、割石を積み上げ、持ち送り式の形態を取っている。

古墳の石室構造は筑後型の構築方法であり、日田市内では法恩寺古墳群に形態が類似する。

構築時期は副葬品等からみて6世紀後半と思われる。（友岡）

文献：「有田塚ヶ原古墳群」『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報－日田～玖珠間－』4．P23～28
大分県教育委員会、1994.3

# 165. 佐寺（さでら）横穴墓群

**所在地**　日田市大字有田字佐寺
**調査原因**　道路建設
**調査期間**　930426～940216
**調査主体**　大分県教育委員会
**調査面積**　5,100㎡
**担当者**　友岡信彦・神崎哲也
**処　置**　調査後破壊
**台帳番号**　新発見

**位　置**　佐寺横穴墓群は、平成2年度に調査を行った佐寺原遺跡が位置する台地の斜面北東側に立地する。調査地区は横穴墓群のほぼ中央付近で、緩やかな谷あいとなり、有田川右岸の河岸段丘上にあたる。この斜面の西方向には夕田横穴墓群が位置する。

佐寺横穴位置図
（地形図「吉井」使用）

**遺　構**　標高115～120mの間に6基の横穴墓を検出した。残りは全体に良くない。

**遺　物**　仮7号墓……鉄鏃1、
仮8号墓……勾玉1、管玉2、切子玉4、小玉多数、イモ貝製腕輪1、提瓶1、鉄鏃2
仮9号墓……鉄鏃1

貝輪出土状況

**まとめ**　当横穴墓群は凝灰岩質の斜面に2～3段に別れて構築されている。下段の横穴墓は既に開口しており、後世の二次使用を受けていたため、敷石等の施設は存在していない。上段の3基は斜面の崩落のためか、前庭部の施設等は無く、最初は確認できなかったが、重機による削平時に削られた状態で確認された。3基中2基は、玄室の一部を残すのみであったが、1基（仮8号墓）は玄室から羨道部にかけて残存しており、内部施設は旧状を保っていると考えられる。また副葬品の量、質や立地する地点からみてもこの横穴墓の被葬者はかなり有力な勢力を持っていたと思われる。

当横穴墓は副葬品からみて6世紀後半に造営されたものと思われる。（友岡）

文献：「佐寺原遺跡」『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報－日田～玖珠間－』4．P15～18
大分県教育委員会、1994．3

# 166. 尾漕（おこぎ）遺跡（B・C地区）

**所在地**　日田市大字有田字尾漕
**調査原因**　道路建設
**調査期間**　930610～930907
**調査主体**　大分県教育委員会
**調査面積**　10,000㎡
**担当者**　友岡信彦・志満紀郎
**処　置**　調査後破壊
**台帳番号**　651178（狐迫遺跡として周知）

**位　置**　遺跡は日田市街から東方向の低丘陵を一つ隔てた谷あい東側に位置し、中央を流れる求来里川の河岸段丘上にあたる。調査区が広範なため、便宜上A～C地区とし、昨年度A地区の本調査を実施し、今年度B・C地区の本調査を実施した。B地区からは東に有田塚ヶ原古墳、西に大迫遺跡・中尾古墳群が望める。

尾漕遺跡位置図
（地形図「日田」使用）

**遺　構**　B地区：古墳1基
C地区：弥生～平安時代の遺物包含層

**遺　物**　B地区：石室から瑪・甕の破片と、ガラス小玉約150個を検出
C地区：弥生～平安時代の土器多数

石室

**まとめ**　B地区はA・C地区に挟まれた微高地でA地区とは比高差約40mである。

昨年度、古墳の所在が確認され、尾漕古墳とした。古墳は長さ約50m、幅約10mの微高地北側先端に立地しているが、近代墓地として開墾、削平を受けており、墳丘等の施設は既に消滅している。石材は散在、或いは墓標として使用されていた。玄室の平面プランは、長さ2.3m、幅1.1mの長方形を呈する。主軸をN－67°－Wにとり、西北西に開口する単室の両袖型横穴式石室である。出土遺物からみて5世紀後半の構築と思われる。

C地区は柱穴を検出しただけで、明確な遺構は確認できなかった。（友岡）

文献：「尾漕遺跡」『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報－日田～玖珠間－』4．P19～22
大分県教育委員会、1994．3

# 167. 夕田古墳（ゆうた）

**所在地** 日田市大字有田字夕田
**調査原因** 道路建設
**調査期間** 930426～931006
**調査主体** 大分県教育委員会
**調査面積** 2,400㎡
**担当者** 友岡信彦・神崎哲也
**処置** 調査後破壊
**台帳番号** 651069

**位置** 夕田横穴墓群の位置する斜面の頂上部に立地する。頂上は南北に延びる細い尾根になっており、さらに北端で西に折れ緩やかに下降する。頂上からは日田盆地を一望できる眺望の良い場所である。

夕田古墳位置図
（地形図「吉井」、「日田」使用）

**遺構** 古墳1基
石棺墓2基
木棺墓1基

**遺物** 古墳：棺外　鉄剣1
周溝　土師器坩、小型丸底壺
1号主体部　人骨3体、鹿角装鉄剣1、鉄鏃4、鉄鎌1
2号石棺墓　鉄剣1

主体部

**まとめ** 当地区は尾根の中央付近で石棺墓1、木棺墓1基を確認、調査した。遺構及び周囲は開墾等により、撹乱が激しく、旧状を留めていないが、木棺墓の周囲に周溝状の溝が確認されたことや、周囲の地山が僅かながら高まりを残していたことからみて、この2基は既に消滅した古墳の主体部であったと思われる。

夕田古墳は鍵状に延びる尾根の西側先端に土盛りを行って墳丘を整えた円墳である。直径は約8mを測り、一部周溝も確認された。古墳の中央からやや西よりに2基の主体部が並立する。2基とも組合せ式の箱式石棺である。1号主体部は比較的残りは良いが、2号主体部は蓋石、小口石等が壊され、残りは良くなかった。（友岡）

文献：「夕田古墳」『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報－日田～玖珠間－』4．P9～14
大分県教育委員会、1994．3

# 168. 夕田（ゆうた）横穴墓群

**所在地** 日田市大字有田字夕田
**調査原因** 道路建設
**調査期間** 930426～940216
**調査主体** 大分県教育委員会
**調査面積** 1,050㎡
**担当者** 友岡信彦・神崎哲也
**処置** 調査後破壊
**台帳番号** 新発見

**位置** 夕田横穴墓群は日田盆地を取り囲む低丘陵の北東部、花月川右岸の丘陵西斜面中腹に立地する。

今回の調査地点は遺跡のほぼ北端で、標高110～130ｍの間に多数の横穴墓群が確認された。

遺跡からは日田盆地をはさんで西に小迫辻原遺跡・後迫遺跡等の立地する山田原台地が一望できる。また斜面北側には佐寺横穴墓群が立地する。

夕田横穴墓群位置図
（地形図「吉井」、「日田」使用）

**遺構** 検出した遺構は横穴墓50数基であり、このうち工事に影響あると思われる横穴墓43基の発掘調査を行った。

**遺物** 副葬品として多量の須恵器が検出された。そのほとんどは前庭部からで玄室からは若干の須恵器と小玉、耳環、鉄製品が出土した。

第11テラス２号墓の玄室内からは蓋付高坏２セット・把手付埦１の一群と土師器の坩・小型丸底壷と須恵器坏身の一群が検出された。さらに当横穴墓から貝、素文鏡も検出された。

横穴墓の前庭部

**まとめ** 当横穴墓群は、数基単位で前庭部を共有しながら構築されているグループと、１基で単独の墓域を構成している横穴墓に分けられる。

単独で構築されている横穴墓は斜面上位に位置し、時期的にも古いと考えられる。特に第11テラス２号墓は５世紀後半と思われ、横穴墓の初現期の一つと考えられる。その後７世紀の後半まで造墓が行われ、終焉をむかえたと思われる。（友岡）

**文献**：「夕田横穴墓群」『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報－日田～玖珠間－』４．Ｐ５～８
大分県教育委員会、1994．３

## 169. 後迫遺跡（うしろざこ）

**所在地** 日田市大字渡里字後迫
**調査原因** 道路建設
**調査期間** 930406～931110
**調査主体** 大分県教育委員会
**調査面積** 17,000㎡
**担当者** 五十川孝正・岩尾和佳
**処　置** 調査後破壊
**台帳番号** 651049

**位　置** 当遺跡は、日田盆地北部の台地群のひとつである山田原台地の東端部に立地する。この台地は低地とは約30～40ｍの比高差をもち、縁辺部は急傾斜であるが、台地上は昭和30年代の畑地圃場整備事業により、平坦な地形となっている。

山田原台地上には当遺跡以外にも小迫辻原遺跡、草場第１・２遺跡、朝日宮ノ原遺跡、天満古墳群等が、斜面には羽野横穴墓群、小迫墳墓群等の弥生時代から古墳時代にかけての大集落、墓地群が点在する。

後迫遺跡位置図
（地形図「吉井」使用）

**遺　構** 竪穴式住居跡97軒、土坑58基、掘立柱建物６棟、石棺・土坑墓24基、小児用甕棺墓14基、中世墓３基、溝状遺構１条、粘土採掘土坑？３基、柱穴群が確認された。

竪穴式住居は、弥生時代中期から後期のものである。掘立柱建物跡は弥生時代と奈良時代のものと思われる。大型の柱跡内から１点須恵器が出土している。また、粘土採掘抗と思われる土坑も検出された。

完掘状況

**遺　物** そのほとんどが弥生時代中期から後期にかけての土器であるが、ごく一部分奈良時代の須恵器、土師器、中世の磁器等が検出されている。

**まとめ** 当遺跡は台地のごく一部であり、周囲を含めると弥生時代中期～後期にかけては大集落が存在していたものと思われる。その後、奈良時代には掘立柱建物群が、また、中世においては墓地群が形成されていたものと思われる。（五十川）

## 170. 佐寺原遺跡（さでらばる）

**所在地** 日田市大字有田字佐寺原
**調査原因** 実大強度試験棟建設
**調査期間** 931101～931110
**調査主体** 大分県教育委員会
**調査面積** 900㎡
**担当者** 友岡信彦
**処置** 盛土により保存
**台帳番号** 651137

**概要** 佐寺原遺跡は、古くから弥生土器の散布地として知られていたが、現在は大分県林業試験場の敷地として平坦に整備され、植林等が為されている。

平成2年度に九州横断自動車道建設による工事の為、台地の縁辺部の一部が調査され、弥生時代中期～後期にかけての集落跡が確認された。

今回は前回の調査区の南西側の遺構確認調査を行った。当地区グラウンドとして整備されていて、深い所では30㎝以上地山の削平を受けていたが、比較的遺構の残りは良好であった。検出した遺構は竪穴住居跡、土坑、溝、柱穴等であった。盛土工法ということで、遺構の一部を掘り下げたのみである。（友岡）

佐寺原遺跡位置図
（地形図「吉井」、「日田」使用）

## 171. 日田条里遺跡（ひたじょうり）

**所在地** 日田市大字三和字五反田他
**調査原因** 道路建設
**調査期間** 931115～931203
**調査主体** 大分県教育委員会
**調査面積** 約200㎡
**担当者** 友岡信彦・岩尾和佳
**処置** 調査後破壊
**台帳番号** 651044

**概要** 遺跡は日田盆地北部、花月川と有田川の合流する沖積平野に位置する。平成2年度からの継続調査であり、今年度は天神地区の200㎡の調査を行った。

A地区は昨年度調査区の隣接地であり、柱穴数個が確認された。遺物の出土は無かった。

B地区は遺構検出作業を行った結果、自然流路と思われる溝1条を検出した。流路内から縄文晩期～中世にかけての遺物が出土した。

当地区では4年間にわたって調査を行ってきたが、花月川の氾濫のためであろう条里遺構の検出は無かった。（友岡）

日田条里遺跡位置図
（地形図「吉井」、「日田」使用）

文献：「日田条里遺跡」『九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査概報－日田～玖珠間』4．P4．大分県教育委員会、1994．3

## 172. 羽野横穴墓群（はの）

**所在地** 日田市大字三和字城ノ脇
**調査原因** 道路建設
**調査期間** 9310～9311
**調査主体** 大分県教育委員会
**調査面積** 1,250㎡
**担当者** 五十川孝正・友岡信彦
**処置** 計画通り工事
**台帳番号** 651048

**概要** 遺跡は日田盆地北部、花月川が形成する沖積地を見下ろす阿蘇溶結凝灰岩台地の斜面に位置する。当横穴墓群は昭和59・平成3年度と2度調査が行われている。今回は前回の調査区より100m程北西の斜面であり、台地上へ上る市道が通じている地点である。

調査は重機を使用して実施したが、市道建設の際に斜面の大部分が削平をうけており、遺構・遺物とも検出されなかった。（五十川）

文献：「羽野横穴墓群」『九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査概報－日田～玖珠間』4．P4．大分県教育委員会、1994．3

羽野横穴墓群位置図
（地形図「吉井」使用）

## 173. 穴観音古墳（あなかんのん）

**所在地** 日田市大字内河野字倉園
**調査原因** 遺構確認（資料整備）
**調査期間** 940106～0114
**調査主体** 大分県教育委員会
**調査面積** 500㎡
**担当者** 村上久和
**処置** 埋め戻し
**台帳番号** 651108

**概要** 日田盆地の西南部に広がる通称長者原台地上にある。現状で径10m前後の円墳である。主体部は装飾がある複室構造の横穴式石室である。

**遺構** 今回の調査は円墳の周溝確認と石室の写真測量実測を行った。周溝確認調査は古墳の東側と北側にトレンチを3ヵ所設定し、調査を行った。

その結果、東5mと北8mの所で周溝を確認した。石室内の調査は、冬季で乾燥しているためか装飾が明瞭でない。

**遺物** 各トレンチから土師器小片が出土したが図示できないものである。（村上）

穴観音古墳位置図
（地形図「日田」使用）

## 174. 上野第2遺跡（うえのだいに）

**所在地** 日田市大字上野字向原
**調査原因** 道路建設
**調査期間** 920422～920731
**調査主体** 大分県教育委員会
**調査面積** 約2,000㎡
**担当者** 田中裕介・高畠　豊
**処　置** 調査後破壊
**台帳番号** 651125（上野遺跡として周知）

**概　要** 上野第1遺跡の所在する上野台地の西側の向原台地上の遺跡で、台地中央部では弥生時代の遺物が採集されている。今回の試掘調査は台地東端の尾根上と谷部で行なった。尾根部は大正時代の水田開発によって削平されており、谷部もそのときに上流から水を引いて開田されており、それ以前は未利用であったことが判明した。

（田中・高畠）

**文献**：田中裕介・高畠豊『上野第1遺跡（平原地区・米田地区）上野第2遺跡　手崎遺跡（2・3次）――一般国道 210号日田バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報Ⅴ－』大分県教育委員会、1993

上野第2遺跡位置図
（地形図「日田」使用）

column ⑫

平成5年度から、県文化課では、国庫補助を受け、県内装飾古墳発掘調査を実施している。

2ケ年で県内所在の装飾古墳15件27基の調査を行うもので、今年度は日田市穴観音古墳、玖珠町鬼塚古墳、同鬼ケ城古墳、別府市鬼の岩屋1号墳などの調査を行った。

左は別府市鬼の岩屋古墳の調査風景。

**装飾古墳の調査始まる**

## 175. 徳瀬（とくせ）遺跡

**所在地** 日田市大字友田字徳瀬
**調査原因** 市道建設
**調査期間** 931011～940210
**調査主体** 日田市教育委員会
**調査面積** 約600㎡
**担当者** 行時志郎
**処置** 調査後工事
**台帳番号** 651101

**位置** 遺跡は日田盆地西部、三隈川と庄手川に挟まれた中洲の微高地上に存在している。

これまでの調査で、微高地南部の低位沖積地では河川の氾濫等により遺構は確認されていないものの微高地上では弥生時代の竪穴式住居跡などの存在が確認されていた。

**遺構** 〈弥生時代前期末～古墳時代前期初頭〉

土坑や円形竪穴住居跡からは弥生前期の城ノ越式土器や中期の須玖式土器が中心に出土。また、鋳造鉄斧片の再利用鉄器の可能性のある小鉄片が約20点出土。この他、刀子、鉄鏃、碧玉製管玉、柱状片刃石斧、石包丁、太形蛤刃石斧等がみられた。

〈古墳時代前期〉

10号石棺墓の内部や棺外から中国後漢鏡片や鉄鏃ガラス小玉などが出土。方形周溝墓の溝の中からは朱塗りの祭祀土器などが出土。

**まとめ** 弥生時代においては、台地上ではなく盆地の中心部に前期から継続して集落を立地する例は少なく、その特異性が注目される。

また、須玖式土器の占める割合が高いこと、鉄器の出土量が豊富なことなどもこの遺跡の性格を考える上で興味深い。

石棺墓内より出土した鏡片は径が約7.8センチと小さく外区の部分しかないもののその大きさと外区の文様、形などから位至三公鏡と考えられる。また一部に穴を穿った痕跡も残っており、装身具として使用されたと見られる。（行時）

徳瀬遺跡位置図
（地形図「日田」使用）

徳瀬遺跡全景写真

10号棺墓内鏡片出土状況

# 176. 小迫辻原遺跡（おざこつじばる）

**所在地** 日田市大字小迫辻原
**調査原因** 天地返し・遺跡確認
**調査期間** 920824～930330
**調査主体** 日田市教育委員会
**調査面積** 3,133㎡
**担当者** 土居和幸・森山敬一郎
**処　置** 現状保存
**台帳番号** 651053

**位　置** 遺跡は日田盆地北部の台地群の一角である標高約124mの辻原台地上に位置する。この台地下には朝日川が蛇行しながら東流しており、沖積地との比高差は約40mを測る。遺跡周辺の台地上には大規模な遺跡が点在しており、西に朝日宮ノ原遺跡、天満前方後円墳、小迫横穴墓群、南に吹上遺跡、北友田横穴墓群、東に草場第二遺跡、後迫遺跡などで、弥生時代から古墳時代の代表的な遺跡でもある。

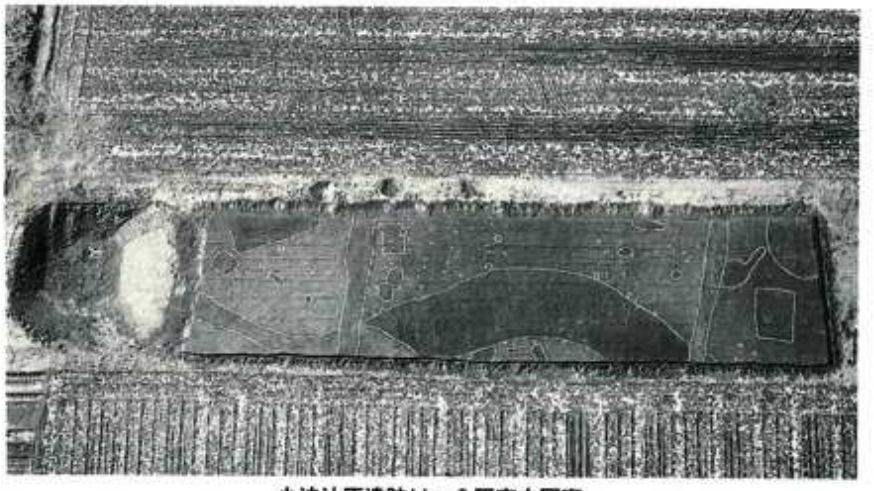
小迫辻原遺跡位置図
（地形図「吉井」・「日田」使用）

**遺　構**　（G区）弥生時代－袋状貯蔵穴数基、土壙数基、
溝1条（1号条溝の一部）、
竪穴住居3軒、掘立柱建物（？）2棟
中　　世－溝1条、
（H-3区）弥生時代－竪穴式住居跡3軒、土坑4基
古墳時代－溝1条（3号条溝の一部）、竪穴式住居跡1軒
中　　世－掘立柱建物数棟
近　　世－溝3条
（J区）古墳時代－溝1条（2号環濠の一部）
（I・L区）弥生時代－土坑数基

**遺　物**　弥生時代…土器（甕・壺など）、石包丁など
古墳時代…土器（甕・壺・高坏・碗など）、鉄鏃など
中　　世…龍泉窯青磁、白磁、土師器、擂鉢など

**まとめ**　今回の調査では、①1号環濠が台地の地形に沿って巡る可能性が高くその内部に7基前後の竪穴住居が伴うことが確認できた、②しかも1号環濠は場所によっては3号環濠により完全に切られている点、③2号環濠は台地縁辺部に沿って巡ることが確認できた点、④3号環濠は台地縁辺部に沿って巡ることが確認でき点などが大きな成果としてあげられ、台地西側に展開する3つの環濠の実態にせまることができた。（土居）

小迫辻原遺跡空中写真



小迫辻原遺跡H－3区空中写真

# 177. 求来里平島遺跡A地点

**所在地** 日田市大字求来里字平島
**調査原因** 広域農道建設
**調査期間** 930512～930721
**調査主体** 日田市教育委員会
**調査面積** 約400㎡
**担当者** 行時志郎
**処置** 計画通り工事
**台帳番号** 新発見

**位置** 日田盆地東部の求来里川沿いに細長く開けた谷状沖積地の微高地上に存在する。

遺跡周辺には東部に町野原遺跡、西部に元宮遺跡といった周知遺跡が存在し、町野原台地の緩斜面上には平島遺跡を見下ろすような位置に横穴式石室を内部主体とした古墳が存在している。

求来里平島遺跡A地点
（地形図「日田」使用）

**遺構** 縄文時代晩期／土坑1基
古墳時代中期～後期／竪穴住居跡6軒
土坑1基

**遺物** 縄文時代晩期／浅鉢・深鉢・打製石斧・磨玉製管玉
古墳時代／須恵器…器台の胴部のみを打ち欠いて甕を置く台（器台）に転用した土器。
土師器…甕を中心に椀や高坏など。また甕の口縁部を利用して胴部を打ち欠き、器台としたものが3点出土している。

**まとめ** 須恵器の器台は5世紀後半と考えられ、市内出土の須恵器では最古に属する時期である。竪穴住居跡はいずれもカマドを造りつけており、この時期までにはカマドは日田盆地内にかなり普及していたものと考えられる。（行時）

求来里平島遺跡A地点全景写真

# 178. 求来里平島遺跡Ｂ地点

**所在地** 日田市大字求来里字平島
**調査原因** 農道建設
**調査期間** 940214～940222
**調査主体** 日田市教育委員会
**調査面積** 130㎡
**担当者** 土居和幸・森山敬一郎
**処置** 調査後破壊
**台帳番号** 651196

**位置** 遺跡は日田盆地東北部、求来里川左岸の標高約136ｍの丘陵先端に位置する。Ｂ地点はその丘陵先端のわずかに平坦となっている場所にあたる。遺跡の北側には町野原遺跡が存在し、周辺には台地上や丘陵尾根上に円墳が点在している。

**遺構** 縄文時代晩期：土坑１基
古墳時代中期：竪穴住居２棟、土坑１基、柵列（？）１

**遺物** 縄文時代晩期：深鉢、石器
古墳時代中期：土師器（甕・碗・高坏）
このほか、近世期頃の染付が採集されている。

**まとめ** 今回の調査では、狭い範囲であったにせよ古墳時代中期の集落の一部を確認することができた。なかでも１号竪穴住居は５世紀後半頃の所産で、竪穴住居の南東隅にカマドを有する。この時期のカマドを有する竪穴住居の例としては市内では古式の例である。（土居）

求来里平島遺跡Ｂ地点位置図
（地形図「日田」使用）

求来里平島遺跡Ｂ地点

## 179. 日田条里遺跡上瀬井手地区

**所在地** 日田市大字渡里字上瀬井手
**調査原因** 住宅造成
**調査期間** 930902
**調査主体** 日田市教育委員会
**調査面積** 約100㎡
**担当者** 行時志郎
**処置** 計画通り工事
**台帳番号** —

**概要** 遺跡は日田盆地北部の沖積地上に存在する。遺跡の東部約300mには独立山丘崖面に多数の横穴墓が築かれた月隈横穴墓群が存在している。

調査は住宅地の空き地に機械による遺構の確認を行った。その結果、遺構は確認されなかった。（行時）

日田条里遺跡上瀬井手地区位置図
（地形図「吉井」、「日田」使用）

## 180. 三和教田遺跡A地点

**所在地** 日田市大字三和字教田
**調査原因** 住宅造成
**調査期間** 930811
**調査主体** 日田市教育委員会
**調査面積** 約100㎡
**担当者** 行時志郎
**処置** 次年度発掘調査
**台帳番号** 651044（条里跡として周知）

**概要** 遺跡は日田市北部、花月川沿いに広がる沖積地上に存在する。遺跡周辺ではこれまでに九州横断自動車道建設に伴う調査で沖積地上で古墳時代の竪穴住居跡が発見されているにすぎない。また、東部の葛原台地上においては弥生時代の土坑や古墳時代の竪穴住居跡が確認されている。

調査は機械により南北方向に長いトレンチを設定して遺構の確認を行った。その結果、弥生時代の溝状遺構や土坑が確認されたため、次年度本調査を実施することとした。（行時）

三和教田遺跡A地点位置図
（地形図「吉井」使用）

## 181. 古金（こがね）遺跡

**所在地** 日田市大字日高字古金
**調査原因** 住宅造成
**調査期間** 940331
**調査主体** 日田市教育委員会
**調査面積** 260㎡
**担当者** 行時志郎
**処　置** 計画通り工事
**台帳番号** 651198（範囲拡大）

**概　要** 遺跡は日田盆地東部、玖珠川左岸に開けた小規模な扇状地に向かって舌状に張り出した丘陵上にある。丘陵の頂上は平坦な尾根筋になっており、この尾根の北部には狐塚古墳が存在している。

調査は頂上平坦部を機械を使って遺構検出し、下部の斜面については2ケ所にトレンチを設定し掘り下げ作業を行った。

その結果、遺構・遺物の出土はなかった。

（行時）

古金遺跡位置図
（地形図「日田」使用）

## 182. 内河野（うちがわの）地区

**所在地** 日田市大字内河野字茶ノ木淵
**調査原因** 住宅造成
**調査期間** 930824
**調査主体** 日田市教育委員会
**調査面積** 約500㎡
**担当者** 行時志郎
**処　置** 計画通り工事
**台帳番号** ―

**概　要** 遺跡は日田盆地西部、長者原台地より西に向かって細長く延びる谷状沖積地の北側に東西方向に長い山陵上にある。

調査区は、山陵の平坦部や斜面などに機械により遺構検出を行った。

その結果、遺構・遺物は確認されなかった。

（行時）

内河野遺跡位置図
（地形図「日田」使用）

## 183. 中釣（なかづる）遺跡

**所在地** 日田市大字東有田字中釣
**調査原因** 団体営圃場整備事業
**調査期間** 930625～930709
**調査主体** 日田市教育委員会
**調査面積** 110㎡
**担当者** 行時志郎
**処置** 計画通り工事
**台帳番号** 新発見

**概要** 遺跡は日田市東部、有田川上流の谷あいにある。蛇行する河川と山際の間には狭いながらも沖積地が三角形型に広がり、現在はそれを階段上に整えて水田としている。

試掘調査は対象面積約125,000㎡の中に11ケ所のトレンチを設定した。その結果、川に近い位置の砂層の中から1点縄文時代早期の押型文土器が出土したが遺構の存在は確認できなかった。（行時）

中釣遺跡位置図
（地形図「吉井」、「日田」使用）

## 184. 上野切畑山（うえのきりはたやま）遺跡

**所在地** 日田市大字上野字切畑山
**調査原因** 県道拡幅
**調査期間** 931124～931126
**調査主体** 日田市教育委員会
**調査面積** 15㎡
**担当者** 行時志郎
**処置** 計画通り工事
**台帳番号** 651125（上野遺跡として周知）

**概要** 遺跡は日田盆地南部、上野台地上に存在する。

この台地南部では平成2年度より国道210号バイパス建設に伴う発掘調査が行われ、奈良時代の集落遺構が確認されるとともに「豊馬豊馬」と線刻された分銅型の石製品が出土し、駅との関連が注目されている。

また、平成3年度に市道切畑美濃線道路改良工事に伴い行われた発掘調査では台地中央部にまで同時期の遺構が分布していることが確認されている。

今回の調査地点は台地北部にあたり、3ケ所に設置したトレンチ内からは奈良時代の土器を始め、弥生時代の遺物も確認され、台地全体に遺跡の範囲が広がることが確認された。

上野切畑山遺跡位置図
（地形図「日田」使用）

（行時）

## 185. 赤迫（あかさこ）遺跡

**所在地** 日田市大字北豆田字赤迫
**調査原因** 市営大原総合運動公園建設工事
**調査期間** 930916～930927
**調査主体** 日田市教育委員会
**調査面積** 約1,500㎡
**担当者** 行時志郎
**処置** 平成5年度本調査
**台帳番号** 651147

**概要** 遺跡は日田盆地東部、中尾原台地南端付近より派生する舌状に延びる尾根上とその眼下に細長く形成された谷状沖積地一帯に存在している。

調査の結果、尾根筋では3地点から古墳時代の石蓋土壙墓などが確認された他、谷筋でも3地点から古墳時代の竪穴住居跡や土坑、あるいは中世の柱穴などが検出された。

（行時）

赤迫遺跡位置図
（地形図「日田」使用）

## 186. 赤迫（あかさこ）遺跡E・F地点

**所在地** 日田市大字北豆田字赤迫
**調査原因** 市営大原総合運動公園建設工事
**調査期間** 930224～930330
**調査主体** 日田市教育委員会
**調査面積** 約3,500㎡
**担当者** 行時志郎
**処置** 次年度調査継続
**台帳番号** 651147

**遺構** 〈E地点〉
石蓋土壙墓　1基
〈F地点〉
時期不明柱穴
ため池状遺構1基
溝状遺構1条

**遺物** ため池状遺構より数点土師器が出土。

**まとめ** E地点は丘陵より沖積地の広がる北部に向かって舌状に張り出す尾根上であり、試掘調査時点で確認された1基の石蓋土壙墓は群集墓の一つとして周辺にも同様の遺構が多数存在するものと考えられていた。しかし尾根上全体の表土を剥いだ結果、そこに存在する墓は1基のみであり、しかも幅約15cm、長さ約50cmと小さく、また盛り土や周溝も確認されなかったことから、古墳としての可能性もきわめて薄いものであった。

赤迫遺跡E地点石蓋土壙墓

またF地点においてはため池状の落ち込みがあり、人工的に周囲を削った跡が確認された。時期は遺物から中世以前と推測される。

（行時）

## 187. 町野原遺跡（まちのばる）

**所在地** 日田市大字求来里字町野原
**調査原因** 農道建設
**調査期間** 940307
**調査主体** 日田市教育委員会
**調査面積** 15㎡
**担当者** 土居和幸・森山敬一郎
**処置** 計画通り工事
**台帳番号** 651191

**概要** 遺跡は日田盆地東部、通称町野原台地上に位置し、古くより縄文時代や古墳時代の遺物が採集され周知遺跡として知られていた。遺跡ではこれまでに2回の試掘調査が行われたが、遺物の出土はあるものの遺構の存在は確認されていない。

今回の調査では、近くに古墳が存在することから遺構の存在が十分考えられたが、機械を使っての調査の結果では遺構の存在は確認できなかった。（土居）

町野原遺跡位置図
（地形図「日田」使用）

## 188. 東寺横穴墓群（とうじ）

**所在地** 日田市大字日高字東寺
**調査原因** 市道建設
**調査期間** 930511～930513
**調査主体** 日田市教育委員会
**調査面積** 30㎡
**担当者** 土居和幸・森山敬一郎
**処置** 計画通り工事
**台帳番号** 651201

**概要** 遺跡は日田盆地東部、標高約120ｍの台地崖面に位置する。この横穴墓群の一角は金銀錯嵌珠龍文鉄鏡が出土したと伝えられるダンワラ古墳の比定地にあたり、横穴墓群の西側には装飾古墳として知られる法恩寺山古墳群が位置している。

今回の調査対象地区は現在でも開口する横穴群の東側にあたることからその存在が十分考えられたが、調査の結果では横穴等を確認することができなかった。（土居）

東寺横穴墓群位置図
（地形図「日田」使用）

## 189. 市ノ瀬遺跡

**所在地** 日田市大字花月字井手ノ鶴
**調査原因** 圃場整備
**調査期間** 930622～930708
**調査主体** 日田市教育委員会
**調査面積** 100㎡
**担当者** 土居和幸・森山敬一郎
**処置** 計画通り工事
**台帳番号** 新発見

**概要** 遺跡は、日田盆地北部の市ノ瀬川と花月川の合流点にあたる花月川右岸の標高約170ｍの段丘上に位置する。遺跡の周囲は、標高約504ｍの大石峠や伏木峠などが迫り、深く狭い谷を形成している。

調査は圃場整備予定地区に数箇所のトレンチを設定し、遺構の確認を行った。その結果、遺構は確認されず、トレンチの一部から中・近世の擂鉢や皿の土器片が出土した。

（土居）

市ノ瀬遺跡位置図
（地形図「吉井」使用）

## 190. 牧原遺跡

**所在地** 日田市大字日高字牧原
**調査原因** 農道建設
**調査期間** 930315～930322
**調査主体** 日田市教育委員会
**調査面積** 150㎡
**担当者** 土居和幸・森山敬一郎
**処置** 次年度に発掘調査
**台帳番号** 651207（大部遺跡として周知）

**概要** 遺跡は、日田盆地南東部の玖珠川と大山川の合流点にあたる標高約150ｍに位置する。遺跡周辺には、中世の牧原千人塚が１基存在する。

調査は農道建設予定地内にトレンチを設定した結果、方形周溝墓の周溝の一部や包含層を検出した。また、遺物は古式土師器や須恵器などが出土している。遺構の確認により、次年度に本格的な発掘調査を実施することとなっている。

（土居）

牧原遺跡位置図
（地形図「日田」使用）

## 191. 穴原（あなばる）遺跡

**所在地**　日田市大字友田字旭原
**調査原因**　貯木場造成
**調査期間**　931215～931224
**調査主体**　日田市教育委員会
**調査面積**　140㎡
**担当者**　土居和幸・森山敬一郎
**処置**　計画通り工事
**台帳番号**　651081

**概要**　遺跡は、日田盆地西部の標高約155ｍに位置する。遺跡の周辺には旧石器・縄文時代の遺物が採集されている荻尾遺跡が存在し、今回の調査区北側丘陵上は昭和61年度に発掘調査が行われ縄文時代早期の包含層が確認されている。

調査では予定地内にトレンチを設定した結果、遺構や包含層を確認することはできず、遺物として黒耀石の石器、弥生土器、青磁などの破片が出土している。（土居）

穴原遺跡位置図
（地形図「日田」使用）

## 192. 古賀原（こがばる）地区

**所在地**　日田市大字小野字古賀原
**調査原因**　圃場整備
**調査期間**　930713～930721
**調査主体**　日田市教育委員会
**調査面積**　100㎡
**担当者**　土居和幸・森山敬一郎
**処置**　計画通り工事
**台帳番号**　―

**概要**　遺跡は、日田盆地北部の通称小野谷と呼ばれる地域のほぼ中央にあたり、花月川の支流である小野川の河岸段丘上に立地する。小野川の両岸には山が連なっており、狭い谷を形成している。

調査は圃場整備予定地域内にトレンチを設定し、遺構の確認を行った。その結果、遺構の検出はできず、遺物の出土も認められなかった。（土居）

古賀原遺跡位置図
（地形図「吉井」使用）

## 193. 日田条里遺跡一丁田地区

**所在地** 日田市大字南豆田字一丁田
**調査原因** 住宅造成
**調査期間** 940110
**調査主体** 日田市教育委員会
**調査面積** 30㎡
**担当者** 土居和幸
**処置** 計画通り工事
**台帳番号** 651044

**概要** 遺跡は盆地内の花月川右岸、標高約87mに位置する。遺跡周辺ではこれまで調査が行われておらず、遺跡の実態がつかめていない地域である。

調査は機械を使って2本のトレンチを設定したが、遺構の確認はできなかった。調査では表土下に礫・砂層の広がりが確認され、遺跡一帯が花月川の氾濫源と考えられる。また、遺物の出土もみられなかった。（土居）

日田条里遺跡一丁田地区位置図
（地形図「日田」使用）

## 194. 日田条里遺跡上瀬井手地区

**所在地** 日田市大字渡里字上瀬井手
**調査原因** スーパーマーケット建設
**調査期間** 940318
**調査主体** 日田市教育委員会
**調査面積** 110㎡
**担当者** 土居和幸
**処置** 計画通り工事
**台帳番号** 651044

**概要** 遺跡は花月川左岸の沖積地、標高約84mに位置する。遺跡の北側には草場第二遺跡や小迫辻原遺跡、西側には吹上遺跡などが存在する。遺跡周辺ではこれまで数回の調査が行われているが、条里遺構や遺跡の存在は確認されていない。

調査は機械を使って5本のトレンチを設定したが、条里遺構や遺跡の存在は確認できなかった。また、遺物の出土もみられなかった。（土居）

日田条里遺跡上瀬井手地区位置図
（地形図「吉井」、「日田」使用）

## 195. 三和教田遺跡Ｂ地点

**所在地** 日田市大字三和字鮎町
**調査原因** 住宅造成
**調査期間** 940330
**調査主体** 日田市教育委員会
**調査面積** 約40㎡
**担当者** 行時志郎
**処　置** 次年度発掘調査
**台帳番号** 651044（条里跡として周知）

**概　要** 遺跡は三和教田Ａ遺跡の存在する地点より南西約500ｍの位置にあり、Ａ地点よりやや微高地上に存在している。

調査は機械により４本のトレンチを設定し遺構検出を行った。その結果、３本のトレンチで竪穴住居跡などの遺構が検出されたため、開発事業者との協議の結果、次年度本調査を実施することとなった。（行時）

三和教田遺跡Ｂ地点位置図
（地形図「吉井」使用）

## 196. 治別当(じべっとう)遺跡

**所在地** 玖珠郡玖珠町大字四日市字治別当
**調査原因** 九州横断自動車道建設（日田～玖珠間）
**調査期間** 901016～930716
**調査主体** 大分県教育委員会
**調査面積** 26,900㎡
**担当者** 染矢和徳
**処置** 計画通り建設
**台帳番号** 652069

**位置** 遺跡は玖珠川の支流にあたる森川西岸の河岸段丘上、上ノ原台地の南側斜面に位置している。台地周辺には千人塚古墳、名草台遺跡、鷹巣横穴墓群、四日市横穴墓群が存在する。調査区は幅40m、長さ700mと広い範囲にわたるため、A～G区を設定した。平成5年度はB・E・G・G区の調査を実施した。

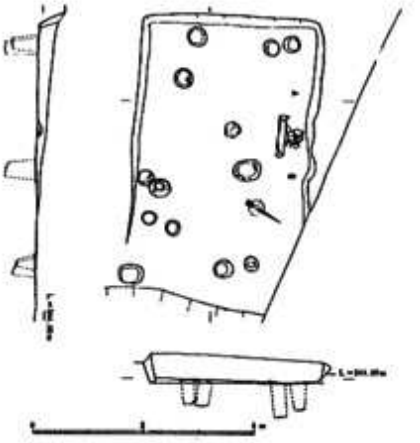
**遺構** B区は平成4年度に続き、杭列、矢板を持つ水路跡の調査を行なった。遺構は削平が著しく、長さ10m、幅2m、深さ0、15mの水路跡を確認した。E区はカマド付き竪穴住居跡9棟、ピット群、土坑、縄文晩期から近世にわたる包含層を確認した。F・G区からは遺構は確認されなかった。

**遺物** 水路跡からは、遺物は確認されなかった。竪穴住居跡からは、6世紀後半～7世紀にかけての土器片が出土した。

（染矢）

文献：『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報1～4集』大分県教育委員会、1991～1994

治別当遺跡位置図
（地形図「森」使用）


8号住居跡全景

# 197. 四日市上の原横穴墓群

**所 在 地** 玖珠郡玖珠町大字帆足字上の原
**調査原因** 九州横断自動車道設
**調査期間** 931025～931029
**調査主体** 大分県教育委員会
**調査面積** 500㎡
**担 当 者** 佐脇義敏・江田　豊
**処　　置** 計画通り建設
**台帳番号** 新発見

**位　置**　通称上の原台地の南側斜面に広がる。この斜面は途中を自衛隊道路で寸断されるが、東側に長く伸びている。地質的には凝灰岩が露頭していて横穴墓を構築しやすい地形である。そのため同じ斜面上に装飾を施した玄室が発見された鷹巣横穴墓群も確認されている。

　またこの台地上には名草台遺跡も広がっていて一大墓域といえる。

**遺　構**　昨年度からの継続で調査を行なっていて今年度20基の調査を行なった。基本的にはテラスを共有する横穴墓で2～5基の横穴が構築されている。テラス部分の土層観察で構築された順番がわかる横穴群もある。ただし大半の横穴はテラス部分が破壊されていた。

**遺　物**　出土遺物は、須恵器・土師器・鉄器・青銅製釧・ガラス製小玉・勾玉が出土した。出土遺物から6世紀後半～7世紀前半にかけてのものと思われる。

四日市上の原横穴墓群位置図
（地形図「森」使用）

# 198. 角牟礼城跡（つのむれ）

**所 在 地**　玖珠郡玖珠町大字森字角埋山
**調査原因**　史跡整備
**調査期間**　931115～940331
**調査主体**　玖珠町教育委員会
**調査面積**　約730㎡
**担 当 者**　佐藤祐二
**処　　置**　保存整備予定
**台帳番号**　652043

**位　置**　角牟礼城は、玖珠盆地の中央を流れる玖珠川の支流の一つである森川の西部に位置する角埋山に位置する。角埋山は標高576ｍで盆地との標高差は約240ｍである。玖珠盆地を挟んで伐株山城跡と対照的な位置にあり、中世から山城として営まれていた。

**遺　構**　調査は、本丸跡を中心に10ケ所のトレンチを配して遺構の確認を行った。その結果、本丸北側石垣上部から約６ｍの隅櫓とされる礎石遺構を、ほぼ同じ高さできっちりと並べてある。また南側より本丸虎口と思われる５段の階段を検出した。遺構はいずれも表土下10～20㎝程度で確認された。

また本丸には土塁・帯曲輪などがめぐっており、中世からの遺構を崩さずにそのまま利用したものと思われる。

**遺　物**　遺物は、本丸南側と帯曲輪から若干出土している。白磁皿・青磁・染付などの陶磁器片が出土している。これらの陶磁器類はいずれも16世紀代後半と思われる。そのほか、すり鉢・火鉢片・土師質土器片なども出土している。　（佐藤）

角牟礼城遺跡位置図
（地形図「森」使用）

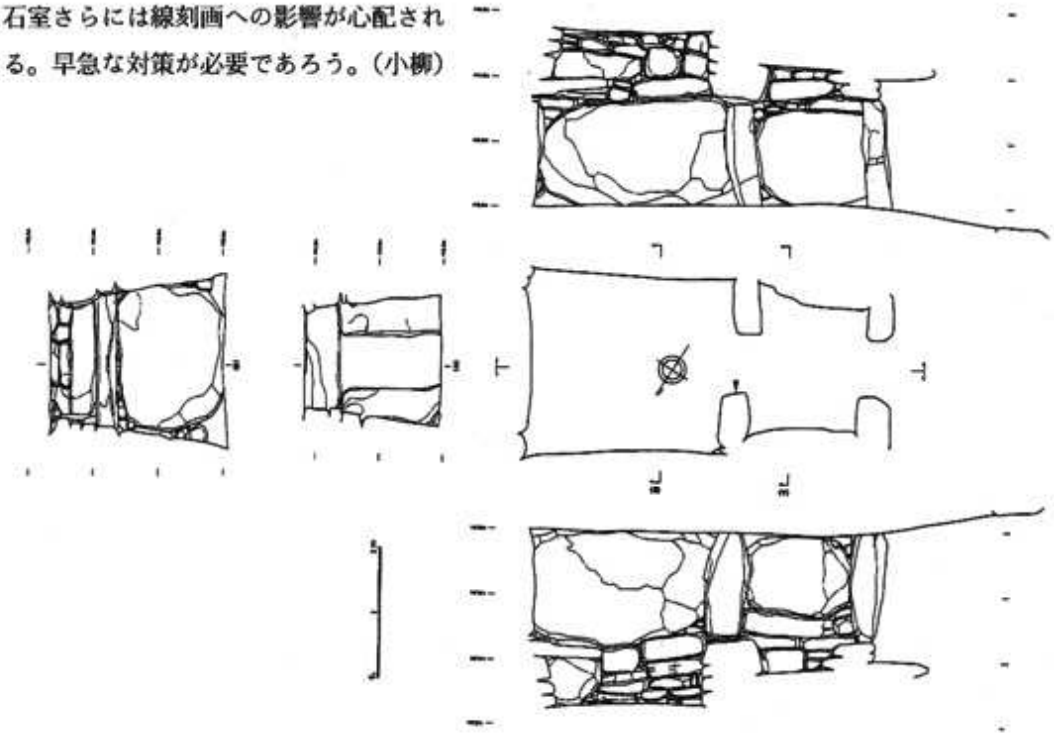
# 199. 鬼ヶ城古墳（おにがじょう）

**所 在 地**　玖珠町大字帆足
**調査原因**　遺構確認（資料整備）
**調査期間**　931213
**調査主体**　大分県教育委員会
**調査面積**　30㎡
**担 当 者**　小柳和宏
**処　　置**　埋め戻し
**台帳番号**　652064

**概　要**　大分県では国見町の鬼塚古墳と並んで、線刻画の描かれる石室墳として著名な古墳であるが、石室の実測図や古墳の実測図、正確な規模など基礎資料の整備は遅れていた。

平成５年度の事業として、外部委託により石室、及び墳丘の測量（いずれも写真測量）を行い、文化課では墳丘裾部にトレンチを設定して、古墳規模の確認に努めた。しかし、墳丘は削平が著しく、周溝の確認は出来なかった。墳丘は平成３年の台風19号によりかなり痛んでおり、石室さらには線刻画への影響が心配される。早急な対策が必要であろう。（小柳）

鬼ヶ城古墳位置図
（地形図「森」使用）


石室実測図

## 200. 松木遺跡（まつき）

| | | | |
|---|---|---|---|
| **所在地** | 九重町大字松木字大明神 | **調査面積** | 17,000㎡ |
| **調査原因** | 道路建設 | **担当者** | 五十川孝正 |
| **調査期間** | 940210～940323 | **処置** | 平成6年度本調査 |
| **調査主体** | 大分県教育委員会 | **台帳番号** | 新発見 |

**概要** 遺跡は松木川の右岸丘陵地に位置する。標高約400m、比高差約50mであり、近くには二日市洞穴や横穴墓群がある。まず調査区を北側よりA・B・C・D地区に設定した。丘陵部のA地区および急斜面のD地区は試掘坑を設定し調査したが、遺構・遺物ともに検出されなかった。平坦部のB・C地区については、6本の試掘坑を設定し調査したところ、古墳時代前期から8世紀初め頃と思われる住居跡4軒（うち2軒はカマドを付設）が検出された。調査区域の一部では、弥生時代中期および後期の土器片も少量ではあるが見られる。また、表土からは扁平打製石斧・石鏃・磨消縄文土器片などが検出された。本調査では住居跡の軒数は増すものと思われ、部分的には縄文時代後期の包含層または遺構の存在が予想される。（五十川）

松木遺跡位置図
（地形図「森」使用）

釘野千軒遺跡 空中写真（東から）

北側を川で、南側を山で画された三ケ月形の河岸段丘上に遺跡は立地する。東側以外は川で囲まれており、隔絶した立地となっている。

## 201. 釘野千軒遺跡（くぎのせんけん）

**所在地** 九重町大字後野上（うしろのがみ）字釘野
**調査原因** 庁舎・グランド建設
**調査期間** 9304～9403
**調査主体** 九重町教育委員会
**調査面積** 18,000㎡
**担当者** 竹野孝一郎
**処　置** 調査後破壊（一部埋土保存）
**台帳番号** 653026（釘野遺跡として周知）

**位　置** 釘野千軒遺跡は、九重町のほぼ中央部に位置し、南北を玖珠川およびその支流である野上川が流れ、遺跡は両川に挟まれた河岸段丘上に立地する。遺跡の北西部先端部で両川は合流し、三方は深い断崖を形成している。ここは、中世山城釘野城および「釘野千軒」の伝承があり、遺跡東側に小規模ながら鎌倉期の土塁および堀切が確認されている。

釘野千軒遺跡位置図
（地形図「森」使用）

**遺　構** 縄文時代早期の石組炉、後期の円形竪穴住居跡6基、晩期の方形竪穴住居跡1基および土坑2基が検出された。また、中世の遺構として47棟の掘建柱建物列、柱穴群および土壙墓群などが検出された。

空中写真

**遺　物** 遺物は、縄文時代早期の押型文土器および無文土器が出土した。後期の土器は、西平式～三万田式土器の範疇に入る土器が出土した。その他、打製石斧・石鏃・岩偶などが出土している。晩期の土器として1条刻目凸帯文土器・浅鉢・壷形土器が出土した。

中世の遺物として建物跡周辺の包含層から輸入陶磁器・土師質土器、構状遺構より鉄滓が出土した。また、土壙墓中より大分県で初例の瑞花双鸞鳶文八稜鏡が出土した。

**まとめ** 中世の建物跡は、検出状況から12世紀代と15～16世紀代の2時期が推定される。特に47棟の建物列は、「釘野千軒」の伝承に係わるものとして注目される。現在のところ遺構の性格は、はっきりしないが、在地領主野上氏に関係の深い建物であった可能性が強い。

（竹野）

## 202. 中尾原遺跡（なかおばる）

**所在地** 天瀬町大字五馬市字中尾原
**調査原因** 農地開発利用促進事業
**調査期間** 930414～940331
**調査主体** 天瀬町教育委員会
**調査面積** 約20,000㎡
**担当者** 坂本嘉弘・今田秀樹
**処置** 次年度継続
**台帳番号** 新発見

**位置** 町の南部には標高350～600mの五馬台地が展開しているが、遺跡はそれらを形成する一つの舌状に延びた標高380～390mの台地上にある。

谷を挟んで北側の台地には小形の竪穴式石室で知られる字土遺跡が存在している。なお、周辺の台地でも過去に石棺が数基確認されている。

中尾原遺跡位置図
（地形図「森」使用）

**遺構** 遺構としては弥生時代終末から古墳時代初頭の竪穴式住居群、古墳時代前半の石棺墓群及び土坑墓、木棺墓が数基、そして、陥し穴群などが中心であり、その他に旧石器時代の文化層から石片等を多数検出した。なお、町内初の中世墓を1基確認することが出来た。

**遺物** 旧石器時代……ナイフ形石器、剥片尖頭器、細石刃など
縄文時代……曽畑式土器、船元式土器など
弥生時代……土器、砥石、鉄器類など
古墳時代……鉄器類、玉類、櫛、銅鏡、銅鈴、土器など
中世……同安窯青磁小皿、白磁合子身

第10号墓

**まとめ** 中尾原遺跡は、杉園遺跡という名で以前より、農地整理等に伴い多数の石棺、そして中から人骨、鉄刀、勾玉等が出土したことで有名な場所であった。今回台地上の8割ほどの面積が調査対象となっていることもあり、弥生時代の集落、古墳時代の墓制を考える上で重要となろう。

（今田）

文献：後藤一重「杉園遺跡」『大分県内遺跡発掘調査概報』1．P13. 大分県教育委員会、1993. 3

# Ⅳ　現地説明会・展示会・講演会・シンポジウム等一覧

## 1．現地説明会

| 名　　称 | 主　催 | 内　　容 | 期　日 | 参加人数 |
|---|---|---|---|---|
| 相原山首遺跡現地説明会 | 中津市教委 | 5世紀から近世にいたる円墳、方墳、火葬墓群の現地説明 | 平成5年5月26日 | 約20人 |
| 大石遺跡文化財めぐり | 緒方町教委 | 発掘の現地説明会（小学生対象） | 平成5年8月5日 | 約30人 |
| 臼杵磨崖仏保存修理工事現地説明会 | 臼杵市教委 | 古園石仏群保存修理概要説明 | 平成5年10月3日 | 約200人 |
| 亀塚古墳現地説明会 | 大分市教委 | 亀塚古墳調査成果の解説と現地見学 | 平成5年10月11日 | 約250人 |
| 高森城跡現地説明会 | 宇佐市教委 | 天正時代の城跡を中心に確認された各時期の遺構の説明 | 平成5年11月6日 | 約100人 |
| 上居屋敷遺跡現地説明会 | 宇佐市教委 | 近世の集落と、墓地等の説明 | 平成5年11月28日 | 約50人 |
| 中尾原遺跡現地説明会 | 天瀬町教委 | 弥生時代終末の集落及び古墳時代初めの石棺墓群を中心とした遺跡の現地説明会 | 平成6年2月19日 | 約150人 |

## 2．展示会

| 名　　称 | 主　催 | 内　　容 | 期　日 | 会　場 | 見学人数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 発掘調査速報展 | 臼杵市教委 | 市内の発掘調査による出土遺物と調査概要パネルの展示 | 平成5年5月6日～継続中 | 臼杵市中央公民館 | － |
| 九重町の文化財展 | 九重町教委<br>JA九重町農協 | 埋蔵文化財の展示と石造物のパネル展示 | 平成5年11月6日～11月7日 | ＪＡ九重町農協 | 600人 |
| 玖珠郡教育文化祭 | 学校教育部会 | 町内の遺跡の分布と鷹巣横穴・上ノ原横穴墓群の遺物、写真の展示 | 平成5年11月2･3日 | 町立玖珠中学校 | 1000人 |
| 豊のあけぼの展 | 大分県教委 | 直入町周辺遺跡出土遺物の展示 | 平成5年11月6日～11月7日 | 直入町中央公民館 | 1280人 |
| 豊のあけぼの展 | 大分県教委 | 香々地町周辺遺跡出土遺物の展示 | 平成5年12月4日～12月5日 | 香々地町役場 | 680人 |
| 神々の姿展 | 宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 | 土偶から神像まで、日本の神に関する資料の展示 | 平成5年10月15日～11月14日 | 宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 | 15140人 |
| 話題の資料展 | 宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 | 平成5年度に県内で話題となった資料の展示 | 平成6年3月23日～4月24日 | 宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 | 5600人 |

## 3．講演会・シンポジウム

| 名　　称 | 主　催 | 講　師 | 内　容 | 期　日 | 会　場 | 参加人数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 市民歴史講座 | 宇佐市教委 | 石松　好男 | 考古学から見た太宰府と宇佐 | 平成5年8月21日 | ウサノピア小ホール | 100人 |
| 〃 | 〃 | 林　健亮 | 豊前と出雲の古代寺院 | 平成5年9月11日 | ウサノピア小ホール | 100人 |
| 〃 | 〃 | 飯沼　賢司 | 石清水八幡宮と宇佐弥勒寺 | 平成5年10月16日 | ウサノピア小ホール | 100人 |
| 〃 | 〃 | 岡村　秀典 | 3世紀の東アジアと宇佐 | 平成5年11月27日 | ウサノピア小ホール | 100人 |
| 〃 | 〃 | 上原　真人 | 韓国の初期仏教と宇佐－豊前の新羅文化を中心に－ | 平成5年12月18日 | ウサノピア小ホール | 100人 |

| 名　称 | 主　催 | 講　師 | 内　容 | 期　日 | 会　場 | 参加人数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 文化財講演会 | 大　田　村 | 早稲田大学 海老澤　衷 | 村内で発見された埋蔵文化財についての講演会 | 平成5年7月28日 | 大田村山村開発センター | 120人 |
| 第2回豊の国古代文化シンポジウム | 宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 | 上田　正昭<br>中西　　進<br>山折　哲雄<br>村井　康彦<br>他 | 大菩薩になった八幡神 | 平成5年11月7日 | 宇佐文化会館 | 450人 |
| 日韓シンポジウム | 大分県教委 | 沈　奉謹<br>賀川　光夫<br>下條　信行<br>田中　良之 | 先史時代の日韓交流と大分 | 平成6年1月30日 | 県農業会館 | 300人 |
| 「古代五馬」歴史報告会<br>『筑後川上流域の考古学』<br>『「五馬媛」伝承と考古学』 | 天瀬町教委 | 賀川　光夫<br>後藤　宗俊 | 筑後川上流域に位置する天瀬町の考古学的な背景及び『豊後風土記』記載の「五馬媛」伝承を埋蔵文化財から考察 | 平成6年2月19日 | JA天瀬町多目的集会センター | 90人 |
| 日韓歴史シンポジウム in 宇佐 | 宇佐市教委 | 賀川　光夫<br>申　敬澈<br>横山　邦継<br>刈谷　俊介<br>佐瀬島元子 | 宇佐古代文化の課題<br>－未来に向かっての文化財の活用－ | 平成6年2月20日 | ウサノピア小ホール | 200人 |
| 九州国立博物館誘致のための文化講演会 | 九州国立博物館誘致推進本部<br>大分県教委・大分市教委 | 松島　　健<br>賀川　光夫 | 豊後磨崖仏を通してみた異文化交流 | 平成6年2月26日 | 大分市コンパルホール | 500人 |

4．研修

| 研修名 | 主　催 | 場　所 | 内　容 | 期　日 | 参加者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 平成5年度<br>埋蔵文化財技術者一般研修<br>「一般課程」 | 奈良国立文化財研究所 | 同左 | 遺跡の発掘調査に関する基礎的な知識と技術の研修 | 平成5年7月6日～8月11日 | 佐藤祐二（玖珠町教委） |
| 平成5年度<br>埋蔵文化財技術者専門研修<br>「寺院官衙遺跡調査課程」 | 奈良国立文化財研究所 | 同左 | 遺跡調査技術の研修 | 平成5年10月21日～11月4日 | 坪根伸也（大分市教委） |
| 大分県市町村埋蔵文化財担当者連絡協議会 | 同左 | 大分市コンパルホール | 現場における労働管理について | 平成5年7月30～31日 | 市町村文化財担当者 |
| 大分県埋蔵文化財担当者研修会 | 大分県教委 | 大分県総合庁舎7階74会議室 | 発掘調査に関する調査基準について | 平成5年11月11～12日 | 県・市町村担当者 |

# V　1993年度の史跡指定埋蔵文化財一覧

**指定物件一覧**

| 名称又は物件 | 指定区分 | 所　在　地 | 所有者または管理団体 | 指定年月日 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|---|
| わりかけ<br>割掛遺跡 | 市　史　跡 | 豊後高田市大字<br>来縄3235－1<br>3236－1<br>3241－1 | 豊後高田市 | 平成5年<br>8月5日 | 墓域を中心に2989㎡を指定<br>現在公園化に向け調整中 |
| あきばおにづか<br>秋葉鬼塚古墳 | 県　史　跡 | 三重町大字秋葉<br>字鬼塚、字木ノ下 | 鬼塚区ほか | 平成6年<br>3月25日 | 前方後円墳 |

# Ⅵ　1993年度の刊行埋蔵文化財関係文献一覧

## A　大分県教育委員会

宮内克己編『先史時代の日韓交流と大分』（第3回日韓シンポジウムレジメ）　大分県教育委員会　1994. 1

牧尾義則・田中裕介ほか編『大分県埋蔵文化財年報2－1992年度版－』　大分県教育委員会　1994. 3

吉田　寛『府内城三ノ丸遺跡Ⅱ』大分県共同庁舎前広場モニュメント建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　1994. 3

後藤一重編『大分県内遺跡発掘調査概報』2　大分県教育委員会　1994. 3

田中裕介・高畠豊『上野第1遺跡（平原地区・米田地区）　上野第2遺跡　手崎遺跡（2・3次）』一般国道 210号日田バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報Ⅴ　大分県教育委員会　1994. 3

原田昭一編『宇佐別府道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（Ⅱ）』大分県教育委員会　1994.　3

## B　大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館

桜井成昭・後藤一重『豊後国香々地荘1』国東半島荘園村落遺跡詳細分布調査概報　1994. 3

『豊後修験道の霊峰桧原山正平寺』1994. 3

『宇佐風土記の丘歴史民俗資料館年報　1992年度』1993. 11

『ＵＳＭ』大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館ニュース34　1994. 3

栗田勝弘編『六郷山寺院遺構確認調査報告書Ⅱ』1994.　3

## C　市町村教育委員会

栗焼憲児『永添遺跡　中津城址（御用屋敷跡）　ホヤ池窯跡』中津市文化財調査報告13　中津市教育委員会　1994. 3

栗焼憲児『原遺跡』中津市文化財調査報告14　中津市教育委員会　1994. 3

植田由美『森山遺跡』岡田洋ラン農場移転工事に伴う発掘調査概報　三光村教育委員会　1994. 3

植田由美『三光地区遺跡群発掘調査概報　』三光村教育委員会　1994. 3

林　一也ほか『一般国道10号宇佐道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』宇佐市教育委員会　1994.　3

佐藤良二郎・小倉正五『宇佐地区遺跡群発掘調査概報－小部遺跡10次・虚空蔵寺跡8次・切寄瓦窯跡－』宇佐市教育委員会　1994. 3

宇佐市教委文化課「宇佐平野を掘る　－平成5年度の調査概要－」『広報うさ』 631　Ｐ4～5　宇佐市役所　1994. 3

〆野勝教『安心院地区遺跡群発掘調査概報』安心院町教育委員会　1994. 3

下村清一『真玉地区遺跡群発掘調査概報』1　真玉町教育委員会　1994. 3

後藤一重編『香々地の遺跡Ⅰ』（香々地町文化財調査報告1）　香々地町教育委員会　1994. 3

小柳和宏編『豊後国田原別符の調査Ⅰ』大田村文化財調査報告書1大田村教育委員会　1994. 3

藤本啓二『飯塚遺跡』（国東町文化財報Ⅱ）　国東町教育委員会　1994. 3
松本啓子『小野、大魔遺跡』（安岐町文化財報３）　安岐町教育委員会　1994. 3
『むさしの文化遺産』武蔵町教育委員会　1994. 3
讃岐和夫『県指定史跡　亀塚古墳－保存整備事業第１次発掘調査概報－』大分市教育委員会　1994. 3
讃岐和夫ほか『猪野遺跡』大分市教育委員会　1994. 3
『大分市文化財だより』1993年度号　大分市教育委員会文化財室　1994. 3
『Funai府内及び大友氏関係遺跡総合調査研究年報Ⅱ』大分市歴史資料館　1994. 3
『大分市歴史資料館年報　1992年度』大分市歴史資料館　1993. 10
『豊後の碩学　後藤碩田』第12回特別展図録　大分市歴史資料館　1993. 10
『大分市歴史資料館ニュース』23（下郡遺跡、県内出土古銭）　1993. 7
『大分市歴史資料館ニュース』24（焼物検索表）　1993. 9
『大分市歴史資料館ニュース』25（後藤碩田）　1993. 12
『大分市歴史資料館ニュース』26（金谷迫城を調査、大友家の鹿笛）　1994. 3
宮内克己編『北原遺跡』挟間町教育委員会　1994. 3
坂本嘉弘『十合野遺跡』庄内町文化財調査報告書１　庄内町教育委員会　1994. 3
高橋徹・村上久和『柳原遺跡』庄内町文化財調査報告書２　庄内町教育委員会　1994. 3
原田昭一編『栂牟礼城跡関連遺跡発掘調査報告書』佐伯市教育委員会　1994. 3
高橋信武『小田山城跡と関連遺跡－第１次調査報告書－』弥生町文化財調査報告書３　弥生町教育委員会　1994. 3
後藤幹彦『大野地区遺跡群発掘調査概報』　大野町教育委員会　1994. 3
高野弘之『緒方町大石遺跡』大野川中流域緒方工区広域農道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報Ⅰ　緒方町教育委員会　1994. 3
宮内克己・後藤一重・牧尾義則『田村遺跡・池在遺跡・古市遺跡・一万田館跡』朝地地区遺跡群発掘調査報告書　朝地町教育委員会　1994. 3
中野宏一・原田昭一・吉田寛『下野遺跡』国道10号線犬飼バイパスに伴う埋蔵文化財発掘調査概報１　犬飼町教育委員会　1994. 3
土居和幸・行時志郎『日田市埋蔵文化財年報－平成４年度（1992年度）－』日田市教育委員会　1994. 3
綿貫俊一『都原縄文時代集落遺跡発掘調査報告書』九重町文化財調査報告書20　九重町教育委員会　1994. 3
綿貫俊一編『都原遺跡』（遺跡紹介ブックレット）九重町教育委員会　1994. 3
城戸　誠『戸上遺跡』一般国道57号（竹田拡幅）埋蔵文化財発掘調査概報Ⅰ　竹田市教育委員会　1994. 3
城戸　誠『岡藩城下町遺跡群（茶屋ノ辻近世墓地群・宇野尾敷跡）・竹田地区南部遺跡群Ⅴ』竹田市教育委員会　1994. 3

**D　市町村史等**

『国見町史』国見町　1993. 5

**E　別府大学**

坂田邦洋『考古学統計』杉山書店　1993. 4

橘　昌信「先史時代における東九州と西南四国との交流」『史学論叢』24　P１～22　別府大学史学研究会　1994. 3
周国興（坂口淳志訳）「中国古人類学研究の歴史と現状」『史学論叢』24　P23～31　別府大学史学研究会　1994. 3
後藤重己「石との対応の文化史」『史学論叢』24　P28～31　別府大学史学研究会　1994. 3
橘　昌信「石器と人類の出会い－人類史における石器の位置」『史学論叢』24　P32～33　別府大学史学研究会　1994. 3
飯沼賢司「国東塔の成立－モンゴル襲来と妙法経信仰－」『史学論叢』24　P34～36　別府大学史学研究会　1994. 3
山本春樹「ローマの水道橋－ガールの水道橋を中心に－」『史学論叢』24　P37～38　別府大学史学研究会　1994. 3
村上弁英「石仏の材質と保存－主として大分県下の磨崖仏について－」『史学論叢』24　P39～40　別府大学史学研究会　1994. 3
橘　昌信ほか「大野川・大分川流域の分布調査」『別府大学付属博物館だより』39　別府大学付属博物館　1993. 11
橘　昌信ほか「大分県三重町牟礼越遺跡の試掘調査」『別府大学付属博物館だより』40　別府大学付属博物館　1993. 12

**G　県内雑誌等**

後藤宗俊「首長の原像－その＜突出＞の構造をめぐって」『大分県地方史』150　P２～24　大分県地方史研究会　1993. 9
高橋　徹「大分県出土の古鏡について（一）－出土地名表－」『大分県地方史』152　P１～32　大分県地方史研究会　1994. 1
坂本嘉弘「東九州における縄文時代晩期開始の問題」『おおいた考古』6　P１～18　大分県考古学会　1993. 11
田中裕介「大分県沿岸部採集の製塩土器２例」『おおいた考古』6　P19～26　大分県考古学会　1993. 11
田中裕介・神田高士ほか「緒方町越生にある漆生古墳群の観察」『おおいた考古』6　P27～46　大分県考古学会　1993. 11
菊田　徹「遺跡からみた臼杵磨崖仏－古園石仏前庭部の調査を中心として－」『おおいた考古』6　P47～54　大分県考古学会　1993. 11
吉田　寛「豊後における明治時代前半の瓦当文様」『おおいた考古』6　P47～54　大分県考古学会　1993. 11
芳山泰夫・内藤克己・村上久和・江藤真一「大野郡野津町八里合名塚宝塔の調査」『二豊の石造美術』15　大分県石造美術研究会　1994. 3
用松律夫「首長居館と小迫辻原遺跡」『古代朝鮮文化を考える』8　P１～18　大分の中の古代朝鮮文化を考える会　1993. 12
『大分県文化財保存協議会報』5　大分県文化財保存協議会　1993. 5
椎名慎太郎「文化財保護法と保存運動」P２～３
村松幸彦「大分県下における近代化遺産について」P５～６
渡部幹雄「地域に根ざした博物館の創造」P７～８
土居和幸「小迫辻原遺跡の発掘調査と保存運動について」P９

松尾則夫「大分市内の古墳破壊の現状」P 9～10
用松律夫「川部遺跡の保存運動をめぐる諸問題と科学的精神」P11～12
河野光男「上野大友館跡の保存について」P13
『第1回おおいた文化財フォーラム湯布院－自然・環境と文化財』（大文協ぶっくす1）　大分県文化財保存協議会　1993. 7
高見乾司「湯布院におけるリゾート開発と文化財の現状」P 2～3
村上久和「湯布院のなりたちと文化財」P 7～8
志手駒夫「小田の池周辺地域の文化景観」P12～13
『大分県文化財保存協議会報』6　大分県文化財保存協議会　1993. 9
石部正志「人類の未来と文化財保存」（5）　P 8～11
栗焼憲児「中津伊藤田の黒川さんの庭から土器が出土される」『三保の文化』69　P 8　三保の文化財を守る会　1993. 6
村上久和「福島長久寺を飾った瓦」『三保の文化』70　P 4　三保の文化財を守る会　1994. 1
後藤宗俊「小迫辻原遺跡の意義と保存」『比多考古』3　P 1～2　日田考古学同好会　1993. 7
行時志郎「平成4年度の日田市内の発掘調査速報」『比多考古』3　P 3～5　日田考古学同好会　1993. 7
行時志郎「日田地方の鍛冶と製鉄」『比多考古』3　P 5～7　日田考古学同好会　1993. 7
高倉　厚「神社と古墳」『比多考古』3　P 7～13　日田考古学同好会　1993. 7
千田嘉博「角牟礼城調査の課題」『玖珠郡史談』30　P 2～4　玖珠郡史談会　1993. 7
神田高士「峠の茶店（一）－茶屋峠遺跡・殿様道の調査から－」『臼杵史談』84　P52～65　臼杵史談会　1993. 12
村上久和「三つの高地集落」『玖珠郡史談』31　P 2～4　玖珠郡史談会　1993. 12

## H　九州の雑誌等

高橋信武「九州の陥し穴の変遷」『先史学・考古学論究』熊本大学文学部研究室創設20周年記念論文集　龍田考古会　1994. 3
村上久和「群集墳と横穴墓の成立と展開」『終末期古墳の世界』特別展図録　P66～70　北九州市立考古博物館　1993. 7
田中良之・村上久和「墓室内飲食物供献と死の認定」『九州文化史研究所紀要』39　P91～109　九州大学文学部九州文化史研究施設　1994. 3
清水宗昭「豊地方における古墳時代前・中期の首長層の動向について」『古文化談叢』30（中）　P699～718　九州古文化研究会　1993. 8
坂本嘉弘「東九州内陸部の弥生時代前期の様相」『古文化談叢』30（中）　P953～ 985　九州古文化研究会　1993. 8

## I　九州外の雑誌等

菊田　徹「遺跡から見た臼杵磨崖仏－その造立と背景－」『翔古論集』久保哲三先生追悼論文集刊行会　1993. 5
清水宗昭「大分県」『日本考古学年報44（1991年度版）』P 376～ 383　日本考古学協会　1993. 7

村上久和「大分県玖珠郡玖珠町白岩遺跡」『日本考古学年報44（1991年度版）』P608～609 日本考古学協会 1993. 7
土居和幸「大分県日田市小迫辻原遺跡」『日本考古学年報44（1991年度版）』P610～ 613 日本考古学協会 1993. 7
綿貫俊一「北部九州の細石刃文化」『シンポジウム細石刃文化研究の新たなる展開 』P20～P151 佐久考古学会・八ヶ岳旧石器研究グループ 1993.10
海老澤衷「中世村落の復元」『岩波講座日本通史』7 P183～ 220 岩波書店 1993.11
吉武牧子・吉田寛「府内城三ノ丸遺跡出土の前土器」『江戸在地系土器研究会通信』37 P1～5 江戸在地系土器研究会 1993.11
高橋 徹「大分」『倭人と鏡－日本出土中国鏡の諸問題－』35回埋蔵文化財研究集会資料第1分冊 P501～538 埋蔵文化財研究会 1994. 1
田中裕介「大分県」『日本土器製塩研究』P 319～ 325 青木書店 1994. 3
玉永光洋・小柳和宏「豊前豊後の庄内式土器」『考古学ジャーナル』 363 P17～21 ニューサイエンス社 1993. 7
後藤宗俊「埋文行政の「原点」としての発掘調査」『考古学ジャーナル』 367 P1 ニューサイエンス社 1993.11
行時志郎「日田市荻鶴遺跡鍛冶関連遺構の調査」『考古学ジャーナル』 371 P31～35 ニューサイエンス社 1994. 2
小柳和宏「豊後国田原別符の考古学調査－西遷御家人田原氏は何処に館を構えたか－」『日本歴史』 543 P94～103 吉川弘文館 1993. 8
清水宗昭「大分の遺跡(1)－概要－」『九州歴史大学講座』40 P29 海援社 1994. 1
清水宗昭「大分の遺跡(2)－旧石器時代－」『九州歴史大学講座』41 P29 海援社 1994. 2
清水宗昭「大分の遺跡(3)－縄文時代(1)－」『九州歴史大学講座』42 P29 海援社 1994. 3

L 一般書

賀川光夫『瓦礫』山口書店 1993. 6
『賀川光夫・人と学問』賀川光夫先生古希記念事業会 1993. 8
長 順一郎『悠久二万年 村落の歴史－豊後国日田郡石井郷寺内谷遺跡群を中心として－』私家版（54頁） 1993. 5

補 遺

斉藤 忠『猪群山』（私家版）1983.11
松尾則男「おおいたの夜明を七瀬の里に築いた渡来集団の足跡」『古代朝鮮文化を考える』1 P19～29 大分県の中の古代朝鮮文化を考える会 1986.11
松尾則男「大分の古墳と神社」『古代朝鮮文化を考える』2 P56～73 大分県の中の古代朝鮮文化を考える会 1987.12
丸小野克己「上田原石棺群の存在価値」『古代朝鮮文化を考える』2 P74～80 大分県の中の古代朝鮮文化を考える会 1987.12
衛藤忠臣「古代二豊地区における鉄と鉄器の伝来と製鉄の一考察」『古代朝鮮文化を考える』3 P18～38 大分県の中の古代朝鮮文化を考える会 1988.12
松尾則男「大分の古墳と神社（二）」『古代朝鮮文化を考える』3 P105～126 大分県の中

の古代朝鮮文化を考える会　1988.12
丸小野克己「続、上田原石棺群の存在価値」『古代朝鮮文化を考える』3　P127～137　大分県の中の古代朝鮮文化を考える会　1988.12
松尾則男「大分の古墳と神社（五）」『古代朝鮮文化を考える』6　P120～140　大分県の中の古代朝鮮文化を考える会　1991.12
坂田邦洋「国東塔の系譜」『ＬＩＢＥＲ－別府大学一般教育論集－』13　Ｐ１～26　別府大学一般教育　1992.2
『本耶馬溪町の文化財』本耶馬溪町教育委員会　1992.3
『史跡宇佐神宮境内保存管理計画書』宇佐市教育委員会　1992.3
高見乾司「湯布院におけるリゾート開発と文化財の現状」『明日への文化財』31　P22～25　文化財保存全国協議会　1992.3
「宇佐市総合運動場と川部遺跡の保存について」『広報うさ』592　Ｐ４～７　宇佐市役所　1992.7
原田昭一・坪根伸也編「大分県」『古墳時代の竈を考える』第１分冊（32回埋蔵文化財研究集会資料）　P49～112　埋蔵文化財研究会　1992.9
高橋　徹「古式大型仿製鏡について－奈良県桜井市茶臼山古墳出土内行花文鏡の再検討を兼ねて－」『考古学論攷』17　P51～61　橿原考古学研究所　1993.3
河野光男「92おおいた文化財フォーラム・湯布院」『明日への文化財』32　P44～47　文化財保存全国協議会　1993.3
山岡俊邦「大分県各地の古墳分布－考察」『大佐井』10　Ｐ４～13　大分市大在地区文化財同好会　1993.3
「文化財と大在地区の周知遺跡」『大佐井』10　P113～131　大分市大在地区文化財同好会　1993.3
綿貫俊一『深町遺跡』大分県教育委員会　1993.3

# Ⅶ　1993年度の時代別動向

## 旧石器・縄文時代

旧石器時代については天瀬町中尾原遺跡、日出町子招遺跡などで調査が行われ、若干の遺物が確認されている。このほか野津町、大野町などでは天地返し事業に伴う試掘調査が実施され、野津町波津久北遺跡、鍋田原遺跡で旧石器時代遺物が確認されている。天地返し事業の実施された地区は旧石器時代をはじめとする各時代の遺跡密集地域で、事業の著しい進行は遺跡にとって危機的状況をもたらすものとして懸念される。

縄文時代では、これまで調査例が多かった大野川流域については減少し、替わってこれまで比較的調査例の少なかった国東半島地域や久大線沿線地域で注目すべき遺跡がいくつか調査された。早期では、日田市手崎遺跡、挾間町辻遺跡、国東町横手遺跡群などで無文土器を主体とする土器群が出土している。これら無文土器にはベルト状施文の押型文などが伴い、押型文出現期の状況を考える好資料となっている。このほか九重町釘野千軒遺跡では多量の押型文を伴い集石などが検出されたが、部分的な調査にとどめ大半は現状保存された。また、早期末から前期にかけては湯布院町のかわじ池遺跡が注目される。遺跡は谷底のわずかな平坦地に位置しており、これまでの遺跡立地例からすればやや特異と言えよう。しかし、多量の遺物が約50基の集石をともない出土しており、質・量ともにこの時期を代表する遺跡のひとつとなるであろう。後期では杵築市神領貝塚が発見された。後期初頭から前葉にかけてのもので、県下に残る貴重な貝塚として一部調査の後保存措置がとられた。九重町釘野千軒遺跡では西平式～三万田式に伴う円形竪穴住居跡６基が調査された。縄文時代の集落遺跡としては県下を代表するものとなろう。晩期でも前半のものとして香々地町坂口遺跡２基、犬飼町下野遺跡１基、終末のものとして九重町釘野千軒遺跡１基の竪穴住居跡が確認されている。

報告書では庄内町十合野遺跡、九重町都原遺跡の報告が刊行され、前者では小池原上層式前後の、後者では西平式～三万田式の土器についての詳細な検討がなされており、当地域における土器研究の指針となるであろう。　（後藤一重）

## 弥生時代

1970～80年代に行なわれた大野川中・上流域の大規模土地開発事業に伴う発掘調査が一段落し、市町村の委託を受けて県教委の調査員が直接弥生時代遺跡の調査を担当することが、一時期に比べて少なくなった。当該時期の弥生時代集落の調査は、様々な問題を残しながらも、大分県下における行政調査の秩序を形成する大きな契機となり、さらに県下の弥生土器編年や山間部の弥生時代の生活様式の検討を行ない、一定水準以上の成果をあげてきた。これら大野川流域の山間部の弥生時代集落の研究成果については、例えば『岩波講座』や『弥生時代の研究』といった概説書や講座本の類にも、わずか数行の記述に留まることはあっても、必ず取り上げられている。

90年代になって、弥生時代遺跡の調査の主力は、市町村教育委員会が主体となって進めている現状である。大分市教委を主体とした大分平野周辺の弥生時代遺跡の調査成果が注目される。特に下郡遺跡群の調査は目覚ましく、弥生時代の各時期に渡る遺構・遺物が検出されている。そこでは弥生時代中期の壺形土器の型式組列や台付き壺・鉢・高杯などにみられる「円盤充填技法」の出現時期の問題など、大分平野周辺の土器様相が明らかにされつつある。国東町教委が主体で継続的に進めている安国寺遺跡では、昭和20年代の調査区に対応する時期の溝と竪穴住居・掘立柱建物が検出され、遺跡の全貌が明らかにされつつある。また、日田市の小迫辻原遺跡や宇佐市の小部遺跡では弥生時代の環溝集落から古墳時代の豪族居館へ移り変わる集落変遷が跡づけられている。大野町の二本木遺跡では昭和50年代の調査区の北側に環溝が発見され、当該遺跡が環溝集落であることが明らかにされた。また、県教委によって調査された弥生時代遺跡として、大分市の浜第２遺跡（弥生時代中期）や日田市の後迫遺跡（弥生時代後期）があげられる。

（吉田　寛）

## 古墳時代

重要古墳については史跡指定あるいは史跡公園化を目的とした確認調査が、地元教育委員会を中心に行なわれているほか、既指定の古墳の資料作成のための測量調査が行なわれている（日田市薬師堂山古墳、豊後高田市入津原丸山古墳、三重町重政古墳、以上県指定。）。

さて、その中で特筆すべきことは、大分県を代表する巨大前方後円墳、杵築市小熊山古墳と大分市亀塚古墳の論議が活発になったことである。小熊山古墳は前年度までの確認調査が終了し、全長120m、後円部３段前方部２段築成で各斜面には葺石を行なっている古墳時代前期の県内では最大規模の古墳であることが判明した。この古墳の歴史的評価に関して、清水宗昭「豊地方における古墳時代前・中期の首長層の動向について」は、各地域毎に系列的に築造された首長墓とは性格を異にした豊地域全体を支配する大首長墓の存在を指摘し、小熊山古墳、亀塚古墳などをそれに位置付けた。また、亀塚古墳では史跡公園に向けた確認調査が始まり、墳丘の測量調査と墳丘各部のトレンチ調査が行なわれ、全長120m弱、前方部３段後円部３段築成で、西側に片方だけ造り出しを付設した前方後円墳であることが判明した。各段には円筒埴輪が囲繞し、中期初頭に位置付けられる。

前中期の古墳の調査としては、樽形瓮が出土した造り出し付円墳の中津市永添１号墳、中期の円墳１基方墳８基を検出した宇佐風土記の丘歴史民俗資料館による川部高森古墳群の調査、日田市では前期の小方墳を含む墳墓群徳瀬遺跡や有田古墳の調査、前中期の円墳・方墳20基以上を調査した天瀬町中尾原遺跡等が注目された。後期古墳の調査としては、重要遺跡の調査として、県内の装飾古墳の調査が行なわれた。日田市穴観音古墳、玖珠町鬼ケ城古墳、別府市鬼の岩屋１・２号墳が対象となった。その他に、中期後半にさかのぼる初期横穴墓を含む日田市有田横穴墓群、７世紀代の横穴式石室をもつ方墳群を調査した中津市永添遺跡が注目された。

集落遺跡としては、日田市教育委員会による古墳時代初頭の方形居館の出現を追った日田市

小迫辻原遺跡の調査が最終段階をむかえた。また宇佐市小部遺跡の同様遺跡の確認調査も継続して行なわれた。この他前期の土器一括廃棄をもつ環濠集落の調査として、日田市徳瀬遺跡・大分市稙田条里遺跡、下郡遺跡が調査された。

遺物としては、高橋徹による県内出土銅鏡地名表の作成と、田中裕介による製塩土器の集成が行なわれた。

この他、大分県文化財保存協議会による第2回文化財フォーラムが、小迫辻原遺跡をめぐって開催され、全国的視野から活発な議論が行なわれた。（田中裕介）

## 古　代

古代の遺跡に関しては、多くの場合調査途中に発見されることが多く、とくに集落遺跡は記録保存という形で破壊されることが多い。これに対して瓦窯跡、墓地等は県内での希少性、保存面積の小規模性などから保存活用がはかられる場合が多い。以下の遺跡のうち、虚空蔵寺瓦窯跡、永添遺跡は、保存されることになった。

官衙関係の遺構としては、宇佐市瓦塚遺跡と大分市下郡遺跡が注目される。瓦塚遺跡は8世紀後半から九世紀初頭の溝1条、土壙4基、柱穴群からなり、太宰府系鐙瓦・軒瓦、墨書土器、銅製鍔帯などが出土し、宇佐郡衙の可能性が考えられている。大分郡衙の可能性が考えられている下郡遺跡では今年度も引き続き調査が行なわれ、8世紀後半を中心とする井戸を含む遺構群が多数検出され、H区の井戸では緑釉陶器を含む10世紀前半の遺物が注目された。集落遺跡としては9世紀代の在地首長の居宅遺跡と推定された香々地町信重遺跡が地域の開発史的研究とあわせて特筆される。

生産遺跡としては、7世紀末に建立された中津市相原廃寺の供給瓦窯跡として知られる同市ホヤ池窯跡の確認調査がおこなわれた他、宇佐市虚空蔵寺と供給瓦窯跡のひとつである虚空蔵寺瓦窯跡が調査された。3号窯跡は開窯当初、有段無階登窯で瓦を焼成しているが、後に無段無階登窯に改造され、最終段階には須恵器が焼成されていた。

墓地としては、中津市永添遺跡で8世紀の方形周溝をもち中央に骨蔵器を埋納した火葬墓が調査された。県下初例である。

報告書としては、前述の信重遺跡の報告を含む『香々地の遺跡1』と92年度に調査された8・9世紀の掘立柱建物のみからなる集落遺跡国東町飯塚遺跡の報告書が刊行されたほか、9世紀の土器一括埋納遺構を検出した朝地町古市遺跡A地区の報告がなされた。（田中裕介）

## 中　世

中世の遺跡で1993年度に最も注目を集めたのは玖珠郡九重町の釘野千軒遺跡であろう。玖珠川（筑後川）の最上流域に位置するこの遺跡は、北側を野上川、南側を比高差40mほどの丘陵によって画される三日月形の段丘上に立地している。道と考えられる巾約10mで長さ250mの空間を挟んで両側に整然と建ち並ぶ50軒にも及ぶ掘立柱建物群は、時期決定に決め手を欠くと

は言うものの絵図や絵巻物などに描かれる非農村の姿を彷彿とさせるものがある。ここが「千軒」という呼称を伝えるのも、中世に機能した都市的な場であったことを示唆している。また、ほぼ全貌が明らかにされた点も極めて画期的なことである。

ところで、中世の後半期は現在の社会を規定するような社会が成立した時期であるとも言われる。そのことは地名や現在の耕地や集落の景観、あるいは民俗事象などの多くが中世まで遡り得る、という最近の様々な調査の結果から裏付けられる。このことは決して埋蔵文化財と無関係であるはずはなく、釘野千軒遺跡のような全く知られざる「都市」にしても総体として見た場合、無形・有形のものを含めて何らかの形で継承されている可能性が高く、遺跡全体の把握だけにとどまらず、それを見いだすために周辺部（空間的にも時間的にも）の総合的な調査が必要であろう。

その意味では、大野郡朝地町や国東半島の香々地町と大田村で本年度刊行された圃場整備事業に伴う調査報告書は、それぞれまだ不十分な点は多いとはいうものの、一つの方向性を示唆するものである。これは県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館で、昭和56年から継続している国東半島荘園村落遺跡の調査の手法を採用したものであり、その方法論は今後とも継承していくべきものであろう。このような総合的な調査がなされないかぎり、現在では決して中世の遺跡の評価が出来ない、といっても過言ではない。

次に、注目される個別の遺跡について見てみたい。角牟礼城跡（玖珠町）は高石垣や瓦葺き建物の存在など典型的な織豊系城郭であることが判明した。21条の畝状空堀群を持つ副城（院内町）も調査によりほぼ全容が判明した。このように、大分においては城郭の調査は緒についたばかりであり、今後の展開が注目される。また、赤迫東遺跡（中津市）やカワラガマ遺跡（豊後高田市）、賀来中学校遺跡（大分市）、下郡遺跡群（大分市）、敷戸城津留遺跡（大分市）など館跡や屋敷跡と考えられる遺跡も調査されているが、全貌解明には至っていない。中世前半から後半への変遷もまだ十分には解明されておらず、今後の課題として残されている。

墓の調査例も多い。調査面積との関係で集落内における位置付けなどは十分に把握されていないが、地域を越えて時期的な変遷が追えるような資料の蓄積がなされつつある。また、墓とは異なるが東光寺経塚群（杵築市）、風瀬板碑（野津町）、大辻山中世供養塚群（三重町）など、中世人の精神生活を知る上で重要な資料が発掘調査の対象にのぼったことは評価される。特に、風瀬板碑の調査は今まで安易に移動されていた石塔も、その下部調査が必要であることを教えてくれる。

その他、原日地区（国東町）や小田宮の原遺跡（弥生町）の製鉄遺跡、大魔遺跡（安岐町）の炭窯など生産にかかわる遺跡の調査も行われている。また、香々地町の圃場整備に伴い検出された多くの中世遺跡などは、散村から集村へという古くて新しい問題に一石を投じるものである。これは小さな調査から如何にして地域全体を把握するか、という調査の方法論の問題でもあり、十分な議論の深化が期待される。（小柳和宏）

## 近世以降

近年大分県下でも、近世遺跡の考古学的調査が行なわれるようになった。ここでは93年度以前の動向をも振り返りながら今後の方向性について述べていきたい。

県下の近世遺跡調査の嚆矢は、1984年に行なわれた玖珠郡玖珠町小竿遺跡（近世農村）にある。報告書作成時には、陶磁器の時期的な検討を行なったほか、文献や絵図、遺跡周辺の水掛かり・地名などの聞き取り調査を含めた多面的な調査が行なわれ、一定水準以上の良好な成果が得られたと評価できる。この方法は、宇佐風土記の丘歴史民俗資料館が行なった中世荘園遺跡調査の方法論と軌を一にしながら、近年刊行された『豊後国田原別符の調査Ⅰ』（大田村教育委員会、1994）として結実され、今後の緊急調査時における総合的調査の指針となっている。都市部の調査としては、1986年に行なわれた杵築市杵築小学校校内遺跡があげられる。この調査は県下で行なわれた初めての近世城下町関連の遺跡で、そこでは詳細な層位発掘が行なわれ、17・18世紀代の遺物の変遷が明らかにされている。当該遺跡の存在する杵築市では1993年5月1日に「きつき城下町資料館」と銘打った資料館をオープンさせ、地道な展示活動を行なっているが、その後杵築城下では開発行為に伴う考古学的調査の事例がなく、県下の近世遺跡の調査も一時的に下火となる。

1993年に刊行された『大分県遺跡地図』では、県下8藩の近世城郭とその城下町がすべて埋蔵文化財包蔵地としての線引きがなされ、近世城下町が遺跡としての法的取り扱いを受けるための環境が整った。これを受けて、県教委・各市町村教委とも城下町遺跡の調査に本格的に取り組み始めており、1993年度には府内藩（大分市）、臼杵藩、日出藩、佐伯藩、岡藩（竹田市）、中津藩の各城郭・城下で試掘や発掘調査がなされている。大分市の府内城三ノ丸遺跡では土坑出土一括遺物を基礎に、陶磁器・土器の変遷や瓦の編年といった調査成果が公にされている（県教委『府内城三ノ丸遺跡』1993）。ただし、近世には小藩分立の状況にあった大分県下では、たとえば府内藩の瓦編年などの研究成果が、他藩領内においては基本的に通用せず、考古学的遺物については各藩独自の検討が待たれる。さらに、近世考古学の先進地である江戸（東京）・大阪・肥前陶磁器生産地などの研究成果によると、肥前陶磁器や焼塩壷などは数十年、場合によっては十数年、あるいは数年の単位で実年代を得られることが多く、これらの個別遺物の研究成果を十分踏まえ、県下での調査結果を積極的に、また生き生きと解釈してゆく必要があろう。近世には文献・絵図をはじめ、民俗資料・伝承など豊富な歴史資料が残っているし、現在の我々の生活感覚の中にも残存するものがある。これらの多面的な資料を駆使した上で、さらに細かい時間軸を考古学的資料によって与え、新しい歴史叙述を行なうことは、文化財の保存・活用といった視点に何等かの指針を与えるものであろう。

最後に近代以降の動向についても若干触れておきたい。竹田市浦町遺跡では、明治時代の製糸工場が調査されており、当該時期の殖産工業のスローガンに一致する遺跡の検出があった。

考古学が対象とする時間幅は、行政調査という枠組みの中でも確実に広がりをみせつつある現状を指摘しておきたい。

（吉田　寛）

## Ⅷ　埋蔵文化財の調査に関する諸手続き

埋蔵文化財の発掘調査は、すべて「文化財保護法」のもとに行われる。しかし、実際に発掘調査に至るまでには開発側との様々な調整や事前協議など、法的な問題以前の事柄も数多い。これらがスムーズに行われないと、発掘調査そのものや遺跡保存の面などで、後々大きな問題を惹起させることになる。ここでは、それらを考慮して、一般的な開発事業における開発側と文化財行政側との協議の推移について図1のようにまとめている。また、県内の開発事業の多くを占める農業基盤整備事業との係わりについては図2を参考にしていただきたい。できるだけ早く開発計画の全体像を把握し、さらに遺跡の広がりや性格を確認することが、重要遺跡の保護に最も効果的であることは言うまでもない。

また、図3では発掘調査に係わる届出、および通知に関する文書の動きをまとめている。発掘調査を行うことが決定したならば、このチャートに則って速やかに処理をする必要がある。

**図1．開発事業における埋蔵文化財取扱い及び手続き**

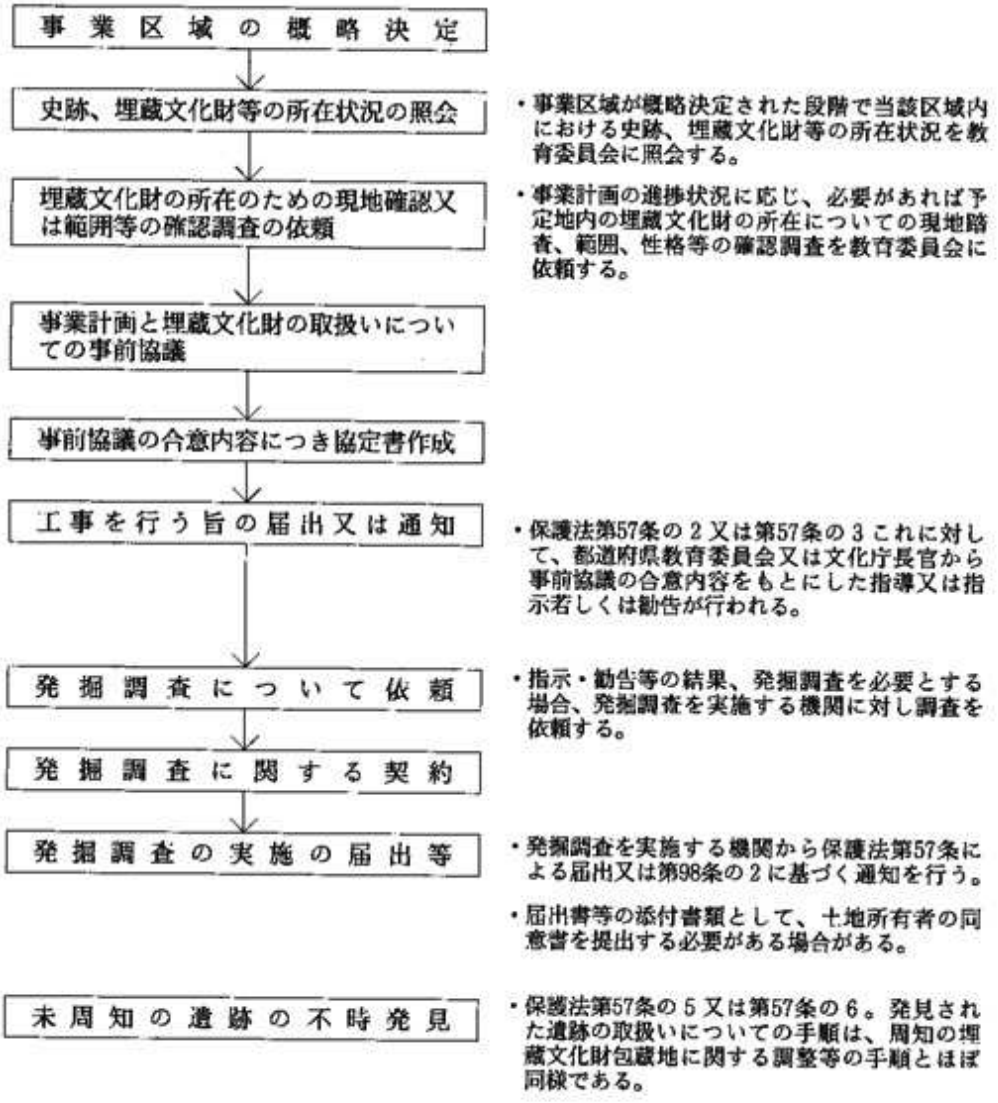


図2．農業基盤整備事業に伴う埋蔵文化財調査のフローチャート

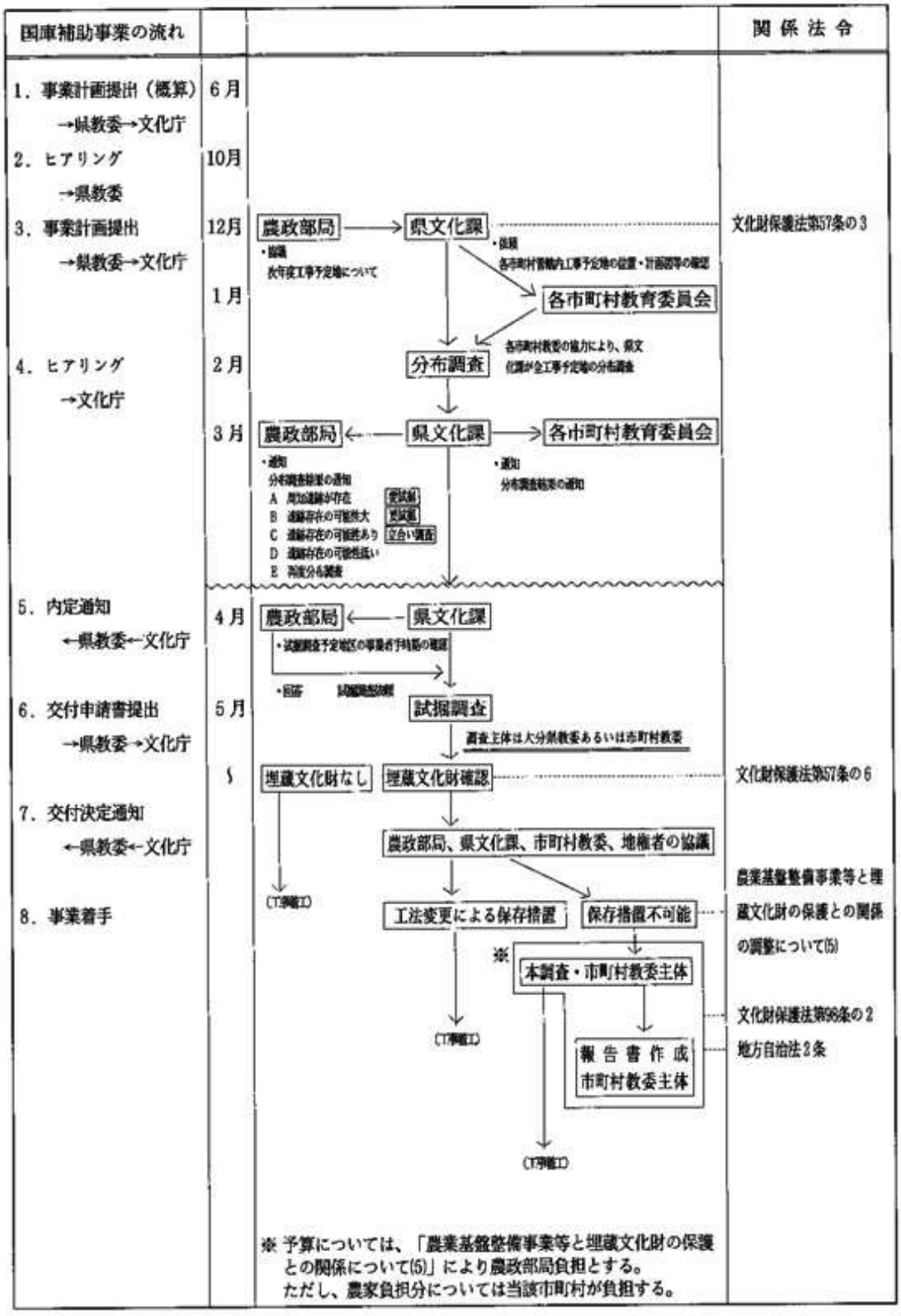


**図3．発掘調査に係る届出文書の流れ**

**1．学術調査**

大学研究機関等 ―57条で届出→ 県教委（権限委任）

**2．周知遺跡の緊急発掘調査**

開発主体者（民　間）
57条の2で届出 →
← 調査等の指示
調査主体者
98条の2で通知 → 県教委（権限委任）

開発主体者（公共団体）
57条の3で届出 →
← 調査等の指示
調査主体者
98条の2で通知 → 県教委（権限委任）

**3．開発中発見された遺跡の調査**

開発主体者（民　間）
57条の5で届出 →
← 調査等の指示
調査主体者
98条の2で通知 → 県教委（権限委任）

開発主体者（公共団体）
57条の6で届出 →
← 調査等の指示
調査主体者
98条の2で通知 → 県教委（権限委任）

県教委（権限委任）
進達→ 文化庁長官
進達→ 文化庁長官
進達→ 文化庁長官
進達→ 文化庁長官

※57条及び98条の届出書類は文化庁進達用と文化課保管用の2部が必要であるが、添付資料については工事計画図は1部でもう1部は工事地区の地図及び概要図をA4サイズにコピーしたものを添付すればよい。

※98条の2の進達書類は、例え数年にわたる継続調査でも、年度毎の提出が必要である。（提出のない場合は、年度実績として残らない。）

※第57条関係の届出は運用上すべて市町村教育委員会を経由するものとする。

※県教委に届出のあった57条関係の書類は、県教委で取りまとめて3ヶ月毎文化庁長官に報告する。

**4．調査等によって出土した遺物の処理事務**

発見者（調査主体者）
7日以内に発見届 →
遺失物法第13条
警察署
文化財提出書 →
← 提出書受領通知
← 文化財認定通知
← 文化財認定通知 ―
― 譲与申請提出 →
（個人64条の1・公共団体64条の3）
← 譲与決定通知 ―

県教委（権限委任）
→ 年2回報告 → 文化庁（長官）
→ 進達
← 通知

※発見届と保管証は監査報告で必要な書類であるが保管証が提出されないことが非常に多く、今後十分に注意されたい。

※遺物発見届は、調査終了後7日以内に警察署に提出しなければならない。

※発見届提出の場合、必ず遺物写真を添付すること。

※発見された遺物は基本的には国の所有であることから、積極的に譲与申請を提出することが望ましい。

※埋蔵文化財の認定については県教委が権限を委任されているが、年2回（1月～6月分と7月～12月分）取りまとめて文化庁に報告する。

# IX　掲載遺跡一覧表

（○ あり　◎ 特にあり）

| 番号 | 市町村名 | 種別 本調査 | 種別 試掘 | 遺跡名 | 旧石器時代 | 縄文時代 草 | 縄文時代 早 | 縄文時代 前 | 縄文時代 中 | 縄文時代 後 | 縄文時代 晩 | 弥生時代 前 | 弥生時代 中 | 弥生時代 後 | 古墳時代 前 | 古墳時代 中 | 古墳時代 後 | 飛鳥時代 7C | 奈良時代 8C | 平安時代 9・10C | 平安時代 11・12C | 鎌倉時代 南北朝 13・14C | 室町時代 15・16C | 江戸時代 17・18・19C |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 中津市 | ○ | | 三口遺跡 | | | | | | | | | | | | | ◎ | | ◎ | ◎ | | | | |
| 2 | 〃 | ○ | | 福島遺跡 | | | | | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | |
| 3 | 〃 | ○ | | 相原山首遺跡 | | | | | | | | | | | | ○ | | ◎ | ◎ | ◎ | | ○ | | ○ |
| 4 | 〃 | ○ | | 如水井 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| 5 | 〃 | ○ | | 大丸川流域遺跡群 | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | |
| 6 | 〃 | ○ | | 大坪遺跡 | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | |
| 7 | 〃 | ○ | | 赤迫東遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | |
| 8 | 〃 | | ○ | 大池南遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 〃 | | ○ | 亀山遺跡 | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | |
| 10 | 〃 | | ○ | 沖代条里遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | |
| 11 | 〃 | | ○ | 中津城跡（旧城館跡） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ |
| 12 | 〃 | ○ | | 上万田遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 豊後高田市 | | ○ | 光尾地区 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 〃 | | ○ | カワラガマ遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ◎ | |
| 15 | 〃 | | ○ | 宮林遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | |
| 16 | 〃 | | ○ | 鯨の内遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 17 | 三光村 | ○ | | 上ノ原遺跡 | | | | | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | |
| 18 | 〃 | ○ | | 森山遺跡 | | | | | | | | | ◎ | | | | ○ | | | | | | | |
| 19 | 耶馬渓町 | ○ | | 江瀬遺跡 | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | |
| 20 | 〃 | | ○ | 黒法師遺跡 | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | |
| 21 | 〃 | | ○ | 大野地区 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ |
| 22 | 山国町 | | ○ | 春田遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 23 | 宇佐市 | ○ | | 川部・高森古墳群 | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| 24 | 〃 | ○ | | 切畑遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | | |
| 25 | 〃 | ○ | | 瓦塚遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ◎ | | | | |
| 26 | 〃 | ○ | | 小部遺跡 | | | | | | | | | | | ◎ | | | | ○ | ○ | | | | |
| 27 | 〃 | ○ | | 上宗屋敷遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ |
| 28 | 〃 | ○ | | 川部遺跡 | | | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | |
| 29 | 〃 | ○ | | 虚空蔵寺跡 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ○ | ○ | | | |
| 30 | 〃 | ○ | | 虚空蔵寺跡 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ○ | ○ | | | |
| 31 | 〃 | ○ | | 虚空蔵寺2～4号瓦窯跡 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | | | | |
| 32 | 〃 | ○ | | 向山古墳 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ○ | ○ | | | |
| 33 | 〃 | ○ | | 敷田城跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | |
| 34 | 〃 | | ○ | 野口遺跡 | | | | | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | |
| 35 | 〃 | | ○ | 高森城跡 | ○ | | | | | | | | ○ | ◎ | | ○ | | | | ○ | ○ | | ◎ | |
| 36 | 〃 | | ○ | 史跡宇佐神宮境内 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ◎ | | | | |
| 37 | 〃 | | ○ | 宮迫坊中跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ |
| 38 | 院内町 | | ○ | 鹿城跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | |
| 39 | 安心院町 | ○ | | 上ノ原茶ケ迫遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | ○ | |
| 40 | 〃 | ○ | | 出原遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | |
| 41 | 〃 | | ○ | 小田遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | |
| 42 | 大田村 | ○ | | 赤松遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 43 | 〃 | ○ | | 小川原遺跡 | | | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | ○ | | ○ |
| 44 | 〃 | | ○ | 波多方地区 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 45 | 真玉町 | ○ | | 向畑遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ |
| 46 | 〃 | | ○ | 櫻畑遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○? | |

（○ あり　◎ 特にあり）

| 番号 | 市町村名 | 種別 本調査 | 種別 試掘 | 遺跡名 | 旧石器時代 | 縄文時代 草 | 縄文時代 早 | 縄文時代 前 | 縄文時代 中 | 縄文時代 後 | 縄文時代 晩 | 弥生時代 前 | 弥生時代 中 | 弥生時代 後 | 古墳時代 前 | 古墳時代 中 | 古墳時代 後 | 飛鳥時代 7C | 奈良時代 8C | 平安時代 9・10C | 平安時代 11・12C | 鎌倉時代 南北朝 13・14C | 室町時代 15・16C | 江戸時代 17・18・19C |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 47 | 真玉町 | | ○ | 宮ノ元ノ下遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 48 | 香々地町 | ○ | | 余瀬庄屋屋敷跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | ◎ |
| 49 | 〃 | ○ | | 坂口遺跡 | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | ○ | | |
| 50 | 〃 | ○ | | 田中遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | |
| 51 | 〃 | ○ | | 塔ノ本遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 52 | 〃 | | ○ | 宿東遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 53 | 〃 | | ○ | 門田遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 54 | 〃 | | ○ | 小路遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 55 | 杵築市 | ○ | | 東光寺経塚群 | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 56 | 〃 | ○ | | 神領具塚 | | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | |
| 57 | 別府市 | | ○ | 鬼の岩屋古墳群 | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | |
| 58 | 〃 | | ○ | 野口原C地区 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 59 | 〃 | | ○ | 野口原B地区 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 60 | 〃 | | ○ | 宮園遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | |
| 61 | 〃 | | ○ | 春木芳元遺跡 | | | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| 62 | 〃 | | ○ | 松田地区 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ |
| 63 | 国東町 | ○ | | 横手遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 64 | 〃 | ○ | | 田深条里遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 65 | 〃 | ○ | | 平等寺遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | |
| 66 | 〃 | ○ | | 原H地区遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 67 | 〃 | ○ | | 秋国遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | |
| 68 | 〃 | ○ | | 外園遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | |
| 69 | 〃 | ○ | | 原第1・2遺跡 | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | ○ | | |
| 70 | 〃 | ○ | | 原B遺跡 | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | | | | | |
| 71 | 〃 | ○ | | 原C遺跡 | | | | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| 72 | 〃 | ○ | | 原E遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | |
| 73 | 〃 | | ○ | 大恩寺遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 74 | 安岐町 | ○ | | 大魔遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | |
| 75 | 〃 | | ○ | 一の瀬1号・2号墳 | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| 76 | 〃 | | ○ | 吉松市場遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | |
| 77 | 〃 | | ○ | 六ッ枝遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | |
| 78 | 〃 | | ○ | 小俣地区 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 79 | 〃 | | ○ | 久末京徳遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 80 | 日出町 | ○ | | 子招遺跡 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 81 | 〃 | ○ | | 日出城下町遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 82 | 山香町 | | ○ | 小武地区 | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | ○ | ○ |
| 83 | 〃 | | ○ | 野原A地区 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 84 | 大分市 | ○ | | 下宗方遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 85 | 〃 | ○ | | 北の後遺跡 | | | | | | | | | | ◎ | | | ◎ | | | | | ○ | | |
| 86 | 〃 | ○ | | 荏隈杉下遺跡 | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ | | | | | |
| 87 | 〃 | ○ | | 府内城三ノ丸遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ◎ |
| 88 | 〃 | ○ | | 稙田条里遺跡 | | | | | | | | | | ○ | ○ | | ○ | | | | | | | |
| 89 | 〃 | ○ | | 稙田平石遺跡 | | | | | | | | | | | ○ | | ○ | | | | | | | |
| 90 | 〃 | ○ | | 稙田市遺跡P区 | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | ○ |
| 91 | 〃 | ○ | | 大在第2浜遺跡 | | | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| 92 | 〃 | ○ | | 猪野遺跡 | | | | | | | | | ◎ | ○ | | | | | | | | | ○ | ○ |

（○ あり　◎ 特にあり）

| 番号 | 市町村名 | 種別 本調査 | 種別 試掘 | 遺跡名 | 旧石器時代 | 縄文時代 草 | 縄文時代 早 | 縄文時代 前 | 縄文時代 中 | 縄文時代 後 | 縄文時代 晩 | 弥生時代 前 | 弥生時代 中 | 弥生時代 後 | 古墳時代 前 | 古墳時代 中 | 古墳時代 後 | 飛鳥時代 7C | 奈良時代 8C | 平安時代 9・10C | 平安時代 11・12C | 鎌倉時代 南北朝 13・14C | 室町時代 15・16C | 江戸時代 17・18・19C |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 93 | 大分市 | ○ | | 賀来中学校遺跡 | | | | | | | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | |
| 94 | 〃 | ○ | | 亀塚古墳 | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| 95 | 〃 | ○ | | 敷戸城津留遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ◎ | | |
| 96 | 〃 | ○ | | 下郡遺跡群B区 | | | | | | ○ | | ○ | ◎ | | | | | | | | | | | ○ |
| 97 | 〃 | ○ | | 下郡遺跡群F区 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | ○ | ○ |
| 98 | 〃 | ○ | | 下郡遺跡群H区 | | | | | | ○ | | | | | | | | | | ◎ | | ○ | ○ | ○ |
| 99 | 〃 | ○ | | 下郡遺跡群II区 | | | | | | | | | ○ | ◎ | ○ | | | | | | | ○ | ○ | ○ |
| 100 | 〃 | ○ | | 下郡遺跡群IJ区 | | | | | | | | | | ◎ | | | | | | | | | | ○ |
| 101 | 〃 | ○ | | 近世府内城下層遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| 102 | 〃 | ○ | | 近世府内城下層遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | ◎ |
| 103 | 〃 | ○ | | 横尾遺跡群 | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | ◎ |
| 104 | 〃 | ○ | | 横尾遺跡群 | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | | ◎ |
| 105 | 〃 | ○ | | 横尾遺跡群 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ◎ |
| 106 | 〃 | | ○ | 城台遺跡 | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 107 | 〃 | | ○ | 大在政所遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 108 | 〃 | | ○ | 大在神遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 109 | 〃 | | ○ | 古国府遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| 110 | 〃 | | ○ | 光吉遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| 111 | 〃 | | ○ | 宮崎遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| 112 | 〃 | | ○ | 曲遺跡 | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | ○ | | |
| 113 | 〃 | | ○ | 羽屋地区 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 114 | 臼杵市 | ○ | | 臼杵城下町遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ |
| 115 | 〃 | ○ | | 臼杵石仏群地区遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | |
| 116 | 〃 | ○ | | 野村台遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | ○ |
| 117 | 〃 | ○ | | 左津留遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| 118 | 〃 | | ○ | 下中尾遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 119 | 〃 | | ○ | 臼杵城下町遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ |
| 120 | 〃 | | ○ | 井村遺跡 | | | | | | | | | | ○ | | | | | ○ | | | ○ | ○ | |
| 121 | 〃 | | ○ | 田篠台遺跡 | | | | | | | | | | ◎ | ○ | | | | | | | | ○ | |
| 122 | 挟間町 | | ○ | 由布川小学校遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 123 | 〃 | | ○ | 辻遺跡 | | | ◎ | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | |
| 124 | 〃 | | ○ | 下全遺跡 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 125 | 庄内町 | ○ | | 柳原遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 126 | 湯布院町 | ○ | | かわじ池遺跡 | | | ◎ | ◎ | | | | | | | | ○ | | | | | | | | |
| 127 | 〃 | ○ | | 鶴見駅遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| 128 | 佐伯市 | | ○ | 向坂本地区 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 129 | 〃 | | ○ | 大手町A遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| 130 | 弥生町 | | ○ | 小田遺跡 | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| 131 | 〃 | | ○ | 小田宮の原遺跡 | | | ○ | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | ○ | | ○ |
| 132 | 竹田市 | ○ | | 向山手遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| 133 | 〃 | ○ | | 岡城跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| 134 | 〃 | ○ | | 大勝院跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| 135 | 〃 | ○ | | 菅原ノ辻近世墓地群 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| 136 | 〃 | ○ | | 戸上遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| 137 | 〃 | ○ | | 宇野屋敷跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| 138 | 〃 | | ○ | 神楽園寺遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

（○ あり　◎ 特にあり）

| 番号 | 市町村名 | 種別 本調査 | 種別 試掘 | 遺跡名 | 旧石器時代 | 縄文時代 草 | 縄文時代 早 | 縄文時代 前 | 縄文時代 中 | 縄文時代 後 | 縄文時代 晩 | 弥生時代 前 | 弥生時代 中 | 弥生時代 後 | 古墳時代 前 | 古墳時代 中 | 古墳時代 後 | 飛鳥時代 7C | 奈良時代 8C | 平安時代 9・10C | 平安時代 11・12C | 鎌倉時代 南北朝 13・14C | 室町時代 15・16C | 江戸時代 17・18・19C |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 139 | 竹田市 | | ○ | 浦町遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| 140 | 野津町 | ○ | | 風流板碑 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | ○ |
| 141 | 〃 | | ○ | 牧原遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 142 | 〃 | | ○ | 波津久北遺跡 | ○ | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 143 | 〃 | | ○ | 御霊園遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 144 | 〃 | | ○ | 鍋田原遺跡 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 145 | 三重町 | | ○ | 大辻山中世墳墓群 | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | ○ | |
| 146 | 〃 | | ○ | 三重原遺跡群 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 147 | 〃 | | ○ | 桜馬場遺跡群 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 148 | 〃 | | ○ | 大原地区 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 149 | 〃 | | ○ | 鍛冶屋平地区 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 150 | 〃 | | ○ | 陣鉢遺跡 | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 151 | 〃 | ○ | | 宇対瀬遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 152 | 緒方町 | ○ | | 大石遺跡 | | | | | | | ◎ | ○ | | | | | | | | | | | | |
| 153 | 〃 | | ○ | 二ケ塚遺跡 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | |
| 154 | 大野町 | ○ | | 一本木遺跡M地区 | | | | | | | | | | ◎ | | | | | | | | | | |
| 155 | 〃 | | ○ | 光昌寺遺跡B地区 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 156 | 〃 | | ○ | 岩上遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 157 | 〃 | | ○ | 夏足原遺跡Q地区 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 158 | 〃 | | ○ | 上園遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 159 | 犬飼町 | ○ | | 下野遺跡 | | | | | | ○ | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | ○ |
| 160 | 荻町 | | ○ | 横迫遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 161 | 直入町 | | ○ | 長湯北部地区 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 162 | 日田市 | ○ | | 上野第1遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| 163 | 〃 | ○ | | 手崎遺跡 | | | | | | ○ | | | | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | | | | |
| 164 | 〃 | ○ | | 有田塚ケ原古墳群 | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | |
| 165 | 〃 | ○ | | 佐寺横穴墓群 | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | |
| 166 | 〃 | ○ | | 尾滑遺跡 | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | |
| 167 | 〃 | ○ | | 夕田古墳 | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | |
| 168 | 〃 | ○ | | 夕田横穴墓群 | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | | | | |
| 169 | 〃 | ○ | | 後迫遺跡 | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ○ | | | | | |
| 170 | 〃 | | ○ | 佐寺原遺跡 | | | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| 171 | 〃 | | ○ | 日田条里遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 172 | 〃 | | ○ | 羽野横穴墓群 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 173 | 〃 | | ○ | 穴観音古墳 | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | |
| 174 | 〃 | | ○ | 上野第2遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 175 | 〃 | ○ | | 徳瀬遺跡 | | | | | | | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | | | | | | | | | |
| 176 | 〃 | ○ | | 小迫辻原遺跡 | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | | | | ◎ | ◎ | | ◎ | ◎ | ○ |
| 177 | 〃 | ○ | | 求来里平島遺跡 | | | | | | | ○ | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| 178 | 〃 | ○ | | 〃 | | | | | | | ○ | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| 179 | 〃 | | ○ | 日田条里遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 180 | 〃 | | ○ | 三和教用遺跡 | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | |
| 181 | 〃 | | ○ | 古金遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 182 | 〃 | | ○ | 内河野遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 183 | 〃 | | ○ | 中釣遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 184 | 〃 | | ○ | 上野切畑II遺跡 | | | | | | | | | | ○ | | | | | ○ | | | | | |

（○ あり　◎ 特にあり）

| 番号 | 市町村名 | 種別 本調査 | 種別 試掘 | 遺跡名 | 旧石器時代 | 縄文時代 草 | 縄文時代 早 | 縄文時代 前 | 縄文時代 中 | 縄文時代 後 | 縄文時代 晩 | 弥生時代 前 | 弥生時代 中 | 弥生時代 後 | 古墳時代 前 | 古墳時代 中 | 古墳時代 後 | 飛鳥時代 7C | 奈良時代 8C | 平安時代 9・10C | 平安時代 11・12C | 鎌倉時代 南北朝 13・14C | 室町時代 15・16C | 江戸時代 17・18・19C |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 185 | 日田市 | | ○ | 赤迫遺跡 | | | | | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | ○ | ○ | |
| 186 | 〃 | | ○ | 〃 | | | | | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | ○ | ○ | |
| 187 | 〃 | | ○ | 町野原遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 188 | 〃 | | ○ | 東寺横穴墓群 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 189 | 〃 | | ○ | 市ノ瀬遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 190 | 〃 | | ○ | 牧原遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 191 | 〃 | | ○ | 穴原遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 192 | 〃 | | ○ | 古賀原地区 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 193 | 〃 | | ○ | 日田条里 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 194 | 〃 | | ○ | 〃 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 195 | 〃 | | ○ | 三和教田遺跡 | | | | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | |
| 196 | 玖珠町 | ○ | | 治別当遺跡 | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | |
| 197 | 〃 | ○ | | 四日市上の原横穴墓群 | | | | | | | | | | | | | ◎ | ○ | | | | | | |
| 198 | 〃 | ○ | | 角牟礼山城跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | |
| 199 | 〃 | | ○ | 鬼ヶ城古墳 | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | |
| 200 | 九重町 | | ○ | 松木遺跡 | | | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | | | ○ | | | | | |
| 201 | 〃 | ○ | | 釘野千軒遺跡 | | | ○ | | | | ◎ | ○ | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | ○ |
| 202 | 天瀬町 | ○ | | 中尾原遺跡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

# 索　引


あ

あいはらやまくびいせき（相原山首遺跡・中津市）…… 13

あかさこいせき（赤迫遺跡・日田市）…… 153

あかさこひがしいせき（赤迫東遺跡・中津市）…… 16

あかまついせき（赤松遺跡・大田村）…… 44

あきくにいせき（秋国遺跡・国東町）…… 65

あなかんのんこふん（穴観音古墳・日田市）…… 152

あらおちく（荒尾地区・豊後高田市）…… 20

ありたつかがはらこふんぐん（有田塚ヶ原古墳群・日田市）…… 145

い

いけのはたちく（池の端地区・宇佐市）…… 27

いちのせいちごうふん（一の瀬1号墳・安岐町）…… 72

いちのせにごうふん（一の瀬2号墳・安岐町）…… 72

いぬまるがわりゅういきいせきぐん（犬丸川流域遺跡群・中津市）…… 15

いのいせき（猪野遺跡・大分市）…… 86

いむらいせき（井村遺跡・臼杵市）…… 109

いわがみいせき（岩上遺跡・大野町）…… 138

う

うえのだいいちいせき（上野第1遺跡・日田市）… 143

うえのだいにいせき（上野第2遺跡・日田市）…… 153

うえのはるいせき（上ノ原遺跡・三光村）…… 22

うえのはるくりがさこいせき（上ノ原栗ヶ迫遺跡・安心院町）…… 41

うさじんぐうけいだい（宇佐神宮境内・宇佐市）… 39

うしろざこいせき（後迫遺跡・日田市）…… 150

うすきじょうかまちいせき（臼杵城下町遺跡・臼杵市）

　原山台地区 …… 104

　掛町地区 …… 108

うすきせきぶつぐんちいきいせき（臼杵石仏群地域遺跡・臼杵市）…… 105

うたいぜいせき（宇対瀬遺跡・三重町）…… 134

うらまちいせき（浦町遺跡・竹田市）…… 126

え

えのきはたいせき（榎畑遺跡・真玉町）…… 48

えのくますぎしたいせき（荏隈杉下遺跡・大分市）…… 81

えぶちいせき（江瀬遺跡・耶馬渓町）…… 24

お

おおいけみなみいせき（大池南遺跡・中津市）…… 17

おおいしいせき（大石遺跡・緒方町）…… 135

おおざいおきいせき（大在沖遺跡・大分市）…… 101

おおざいだいにはまいせき（大在第2浜遺跡・大分市）…… 85

おおざいまどころいせき（大在政所遺跡・大分市）…… 100

おおつじやまちゅうせいふんぼぐん（大辻山中世墳墓群・三重町）…… 130

おおつぼいせき（大坪遺跡・中津市）…… 16

おおてまちAいせき（大手町A遺跡・佐伯市）…… 117

おおのちく（大野地区・耶馬渓町）…… 25

おおはるちく（大原地区・三重町）…… 132

おかじょうかまちいせき（岡城下町遺跡・竹田市）…… 122

おきだいじょうりいこう（沖代条里遺構・中津市）…… 18

おぎのだいいせき（雄城台遺跡・大分市）…… 100

おこざいせき（尾漕遺跡・日田市）…… 149

おだいせき（小田遺跡・安心院町）…… 43

おだいせき（弥生町）→こだいせき

おだけいせき（小武遺跡・山香町）…… 77

おにがじょうこふん（鬼ヶ城古墳・玖珠町）…… 171

おにのいわやこふんぐん（鬼の岩屋古墳群・別府市）…… 57

おまたちく（小俣地区・安岐町）…… 73

か

かくちゅうがっこういせき（賀来中学校遺跡・大分市）…… 87

かぐらおかでらいせき（神楽岡寺遺跡・竹田市）… 126

かけまちちく（掛町地区・臼杵市）…… 108

かざせいたび（風瀬板碑・野津町）…… 127

かじやびらちく（鍛冶屋平地区・三重町）…… 132

かどたいせき（門田遺跡・香々地町）…… 52

かみいやしきいせき（上居屋敷遺跡・宇佐市）…… 31

かみぞのいせき（上園遺跡・大野町）…… 139

かみまだいせき（上万田遺跡・中津市）…… 19

かめづかこふん（亀塚古墳・大分市）…… 88

かめやまいせき（亀山遺跡・中津市）…… 17

かわじいけいせき（かわじ池遺跡・湯布院町）…… 113

かわべいせき（川部遺跡・宇佐市）…… 32

かわべたかもりこふんぐん（川部高森古墳群・宇佐市）…… 27

かわらがまいせき（カワラガマ遺跡・豊後高田市）…… 20

かわらづかいせき（瓦塚遺跡・宇佐市）…… 29

き

きたのうしろいせき（北の後遺跡・大分市）…… 80

きりよせがようし（切寄瓦窯跡・宇佐市）…… 28

きんせいふないじょうかあといせき（近世府内城跡遺跡・大分市）…… 95、96

く

くぎのせんけんいせき（釘野千軒遺跡・九重町）…… 173

くもばやしいせき（雲林遺跡・豊後高田市）…… 21

くろほうしいせき（黒法師遺跡・耶馬渓町）…… 25

こ

こうじいせき→しょうじいせき

こうしょうじいせき（光昌寺遺跡）…… 138

こがめづかこふん（小亀塚古墳・大分市）……88

こくぞうじあと（虚空蔵寺跡・宇佐市）…… 33、34

こくぞうじがようし（虚空蔵寺瓦窯跡・宇佐市）… 35

ここばるいせき（小川原遺跡・大田村）…… 45

こだいせき（小田遺跡・弥生町）…… 118

こだけちく→おだけちく

こだみやのはるいせき（小田宮の原遺跡・弥生町）…… 118

こべいせき（小部遺跡・宇佐市）…… 30

こまねきいせき（子招遺跡・日出町）…… 75

ごりょうぞのいせき（御霊園遺跡・野津町）…… 129

さ

さえきはんじょうかまちいせきぐん（佐伯藩城下町遺跡群・佐伯市）…… 117

さかぐちいせき（坂口遺跡・香々地町）…… 50

さくらのばばいせきぐん（桜馬場遺跡群・三重町）…… 137

さづるいせき（左津留遺跡・臼杵市）…… 107

さでらばるいせき（佐寺原遺跡・日田市）…… 151

さでらよこあなぼぐん（佐寺横穴墓群・日田市）… 146

さんがつかいせき（三ヶ塚遺跡・緒方町）…… 136

し

しきだじょうあと（敷田城跡・宇佐市）…… 37

しきどじょうづるいせき（敷戸城津留遺跡・大分市）…… 89

しせきうさじんぐうけいだい（史跡宇佐神宮境内・宇佐市）…… 39

したかねいせき（下金遺跡・挾間町）…… 111

じべっとういせき（治別当遺跡・玖珠町）…… 168

しもごおりいせきぐん（下郡遺跡群・大分市）…… 90～94

しもなかおいせき（下中尾遺跡・臼杵市）…… 108

しものいせき（下野遺跡・犬飼町）…… 140

しもむなかたいせき（下宗方遺跡・大分市）…… 79

しょうじいせき（小路遺跡・香々地町）…… 53

じょすいい（如水井・中津市）…… 14

じんばこいせき（陣箱遺跡・三重町）…… 133

じんりょうかいづか（神領貝塚・杵築市）…… 56

そ

そえじょうあと（副城跡・院内町）…… 40

そとぞのいせき→ほかぞのいせき

た

だいおんじいせき（大恩寺遺跡・国東町）…… 70

だいまいせき（大鷹遺跡・安岐町）…… 71

たかもりじょうあと（高森城跡・宇佐市）…… 38

たしのだいいせき（田篠台遺跡・臼杵市）…… 109

たなかいせき（田中遺跡・香々地町）…… 51

たぶかじょうりいせき（田深条里遺跡・国東町）…… 62

つ

つじいせき（辻遺跡・挾間町）…… 110

つのむれさんじょうあと（角牟礼山城跡・玖珠町）…… 170

つるみだけいせき（鶴見獄遺跡・湯布院町）…… 114

て

てさきいせき（手崎遺跡・日田市）…… 144

でばるいせき（出原遺跡・安心院町）…… 42

てらのうえちく（寺の上地区・宇佐市）…… 27

と

とうえいせき（戸上遺跡・竹田市）…… 121

とうこうじきょうづかぐん（東光寺経塚群・杵築市）…… 55

とうのもといせき（塔ノ本遺跡・香々地町）…… 51

な

なかおばるいせき（中尾原遺跡・天瀬町）…… 174

ながぞえいせき（永添遺跡・中津市）…… 13

なかつじょうあと（中津城跡・中津市）…… 18

ながゆほくぶちく（長湯北部地区・直入町）…… 141

なたせばるいせき（夏足原遺跡・大野町）…… 139

なべたばるいせき（鍋田原遺跡・野津町）…… 129

に

にほんぎいせき（二本木遺跡・大野町）…… 137

の

のぐちいせき（野口遺跡・宇佐市）…… 38

のぐちばるBちく（野口原B地区・別府市）…… 58

のぐちばるCちく（野口原C地区・別府市）…… 58

のぶしげいせき（信重遺跡・香々地町）…… 52

のむらだいいせき（野村台遺跡・臼杵市）…… 106

は

はたかたちく（波多方地区・大田村）…… 46

はつくきたいせき（波津久北遺跡・野津町）…… 128

はのよこあなぼぐん（羽野横穴墓群・日田市）…… 152

はまいせき（浜遺跡・大分市）…… 85

はるBいせき（原B遺跡・国東町）…… 68

はるCいせき（原C遺跡・国東町）…… 69

はるEいせき（原E遺跡・国東町）…… 69

はるHちくいせき（原H地区遺跡・国東町）…… 64

はるきよしもといせき（春木芳元遺跡・別府市）… 59

はるだいいちいせき（原第1遺跡・国東町）…… 67

はるたいせき（春田遺跡・山国町）…… 26

はるだいにいせき（原第2遺跡・国東町）…… 67

はるやまだいちく（原山台地区・臼杵市）…… 104

ひ

ひさすえきょうとくいせき（久末京徳遺跡・安岐町）…… 74

ひじじょうかまちいせき（日出城下町遺跡・日出町）…… 76
ひたじょうりいせき（日田条里遺跡・日田市）…… 151
びょうどうじいせき（平等寺遺跡・国東町）…… 63
ふ
ふくしまいせき（福島遺跡・中津市）…… 12
ふないじょうかあといせき（府内城下跡遺跡・大分市）…… 95、96
ふないじょうさんのまる（府内城三ノ丸遺跡・大分市）…… 82
ふるごういせき（古国府遺跡・大分市）…… 101
ほ
ほかぞのいせき（外園遺跡・国東町）…… 66
ほりのうちいせき（堀の内遺跡・豊後高田市）…… 21
ま
まがりいせき（曲遺跡・大分市）…… 103
まきばるいせき（牧原遺跡・野津町）…… 128
まつきいせき（松木遺跡・九重町）…… 172
まつだちく（松田地区・別府市）…… 60
み
みえのはるいせきぐん（三重原遺跡群・三重町）…… 131
みつくちいせき（三口遺跡・中津市）…… 11
みつよしいせき（光吉遺跡・大分市）…… 102
みやざきいせき（宮崎遺跡・大分市）…… 102
みやさこぼうちゅうあと（宮迫坊中跡・宇佐市）…… 39
みやぞのいせき（宮園遺跡・別府市）…… 59
みやのもとのしたいせき（宮ノ元ノ下遺跡・真玉町）…… 48
む
むかいやまこふん（向山古墳・宇佐市）…… 36
むこうさかもとちく（向坂本地区・佐伯市）…… 116
むこうはたいせき（向畑遺跡・真玉町）…… 47
むこうやまていせき（向山手遺跡・竹田市）…… 120
むつえだいせき（六ツ枝遺跡・安岐町）…… 73
も
もりやまいせき（森山遺跡・三光村）…… 23
や
やなぎばるいせき（柳原遺跡・庄内町）…… 112
ゆ
ゆうたこふん（夕田古墳・日田市）…… 148
ゆうたよこあなぼぐん（夕田横穴墓群・日田市）…… 149
ゆふがわしょうがっこういせき（由布川小学校遺跡・挾間町）…… 110
よ
よこおいせきぐん（横尾遺跡群・大分市）…… 97、98、99
よこさこいせき（横迫遺跡・萩町）…… 141
よこていせき（横手遺跡・国東町）…… 61
よしまついちばいせき（吉松市場遺跡・安岐町）…… 72
よぜけしょうややしきあと（余瀬家庄屋屋敷跡・香々地町）…… 49
よっかいちうえのはるよこあなぼ（四日市上の原横穴墓・玖珠町）…… 169
わ
わさだいちいせきＰく（稙田市遺跡Ｐ区・大分市）…… 84
わさだじょうりいせき（稙田条里遺跡・大分市）…… 83
わさだひらいしいせき（稙田平石遺跡・大分市）…… 84

大分県埋蔵文化財年報 3

―― 平成 5（1993）年度版 ――

発 行 日　1995年 3 月31日

編集・発行　大 分 県 教 育 委 員 会
〒870 大分市府内町 3 丁目10番 1 号
TEL（0975）36－1111（内 5497）

印　　刷　東 洋 印 刷 有 限 会 社